

芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアム推進事業の進捗状況について

(仮称)国際工芸美術館の整備工事着手に向けて実施設計作業を進めているところですが、地域住民との対話(協議・検討)状況や整備計画説明会の実施状況についてご報告いたします。

ならびに、(仮称)公園案内棟/喫茶/工房・アート体験棟基本計画(案)の作成について、ご報告いたします。

1-1 地域住民との対話

芹ヶ谷公園周辺の町内会自治会などを中心として構成されている「芹ヶ谷公園・文化ゾーンネットワーク」と第4回及び第5回芹ヶ谷公園パークミュージアム会議を行いました。

(1) 第4回芹ヶ谷公園パークミュージアム会議

ア 開催日時：4月11日(月) 17:00から19:30

イ 会議概要

- ・今後のパークミュージアム会議の進め方について
- ・より良い計画とするために変更した部分について
- ・アート出合いの広場について

(2) 第5回芹ヶ谷公園パークミュージアム会議

ア 開催日時：5月17日(火) 18:00から20:15

イ 会議概要

- ・より良い計画とするために変更した部分について
- ・(仮称)公園案内棟/喫茶/工房・アート体験棟基本計画概要(案)について

1-2 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアム整備計画説明会の実施

芹ヶ谷公園と(仮称)国際工芸美術館・国際版画美術館の一体的な整備に関する現在の検討状況について、広く市民を対象とした説明会を以下の通り開催しました。(別添資料)

(1) 開催日時及び参加者数

	日時	参加者数
第1回	2022年5月26日(木曜日) 午後6時30分から午後9時まで	88人
第2回	2022年5月29日(日曜日) 午前10時30分から午後1時まで	83人 (15人)
第3回	2022年5月29日(日曜日) 午後3時から5時30分まで	66人 (12人)

※()は、複数回参加者人数

(2) 説明内容

- ・これまでの経緯について
- ・(仮称) 国際工芸美術館と国際版画美術館の一体的な整備について
- ・これまでにいただいたご意見を踏まえて、計画をより良いものにするために、一部計画を変更したことについて
- ・スケジュールについて
- ・(仮称) 公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟 基本計画概要(案)について
- ・意見交換

(3) いただいたご意見

ア 会場でいただいたご意見の一部

- ・(仮称) 国際工芸美術館を建設する場所が、斜面地であり樹木を多く切る必要があることから見直すべきだ。
- ・かける事業費が高額であり中止すべきだ。
- ・計画を白紙に戻し、市民や専門家の意見を取り入れるプロセスから見直すべき。
- ・魅力的なまちになることを期待している。市からは、こういう計画にすることで生まれる人の行動など、具体的な話を色々としてもらったが、みなさんからは、それに対する意見がほとんどない。話を進めるために、大事な話もふまえつつ、具体的な計画に対して、意見を言っていくことが大切だと思う

イ 説明会後にご意見用紙でいただいたご意見の一部

- ・コロナの問題など、現在と社会情勢が大きく異なる時に作成した計画を、強引に進めようとしているようにしか思えない。
- ・参加者のほとんどが反対の声だった。最近ではじめてこの美術館の計画を知った方も、建設されることに対して疑問や反対の意見をしている。
- ・反対する人はすべての市民が反対している様に意見を言うが、賛成して期待している市民もいると思う。芸術の杜として版画、ガラス工芸館にかかわらず、アートに関して多くの人が来るような催しをして、収益をあげるべきだと思う。

2 (仮称)公園案内棟/喫茶/工房・アート体験棟 基本計画(案)の作成

(仮称)公園案内棟/喫茶/工房・アート体験棟のコンセプトや具体的な機能を示す、基本計画(案)を作成しました。

6月15日から7月14日まで、町田市ホームページでの公表をはじめ、市民センターや子どもセンターにて配架し、ご意見を募集します。

(1) 施設のコンセプト

「子どもから大人まで、「アート」の楽しさ、「創造」の喜び、「滞在」の心地よさを体験できる、パークミュージアムの玄関口」

パークミュージアムの美術エリアにおける創作や体験を担う拠点として、工房機能を中心に、多様な世代の人々がアートに触れ合うことができる様々な機会を提供していきます。また、パークミュージアムの総合案内や美術エリアにおける創作・体験活動が集約した玄関口として、アートや芹ヶ谷公園の情報・魅力を提供していきます。

(2) 具体的な機能

- ・パークミュージアムの入口としての「公園案内・運営機能」
- ・誰もが気軽に利用できる「喫茶機能」
- ・誰もがものを作る楽しさを体験できる「工房・アート体験機能」

(3) 整備場所・規模

敷地場所：町田市高ヶ坂一丁目1654-1外(町田荘跡地)

建物規模：延床面積約1,000㎡

(4) 作成にあたって

基本計画(案)の作成にあたっては、これまでに ○版画・陶芸・ガラス工芸等の専門家 ○子ども ○国際版画美術館運営協議会 ○博物館運営委員会 ○版画工房・アトリエ利用者 ○喫茶けやき ○芹ヶ谷公園来園者 ○芹ヶ谷公園・文化ゾーンネットワーク ○広く市民の方々 等と意見交換及びアンケートによる意見聴取等を実施しました。

芹ヶ谷公園“芸術の杜” パークミュージアム 整備計画説明会

町田市

本日の流れ

- ご挨拶
- 整備計画の進捗状況
- 意見交換

2011年3月 町田市の博物館等の新たな在り方構想

2014年6月 （仮称）町田市立国際工芸美術館整備基本計画

- ・ 見せる・楽しむ・支える まちの賑わいに寄与する
- ・ 基本理念「暮らしの中の知恵と美」の探求
- ・ 芹ヶ谷公園内（国際版画美術館の北側）に整備すること

2016年3月 芹ヶ谷再整備基本計画再整備基本計画

- ・ “街中で 人と緑が 出会い 触れ合う **芸術の杜**”
- ・ 重点施策である町田駅周辺のまちづくりにおいて、芹ヶ谷公園の魅力を一層向上させることで新たな賑わいを創出

2016年7月 町田市中心市街地まちづくり計画

- ・ “夢”かなうまちへ 10のプロジェクト
 - 「町田発アート・カルチャーを楽しむプロジェクト」
 - 「周辺資源をみがきまちの魅力として活かすプロジェクト」

(仮称) 国際工芸美術館整備事業

町田市立博物館

閉館 (2019年6月に展示終了)

郷土
資料等

工芸美術
ガラス・陶磁

@本町田 1973年～

生涯学習部へ移管し、活用



町田市立
国際版画美術館

(仮称) 町田市立
国際工芸美術館

新たに芹ヶ谷公園内に美術館として整備

芹ヶ谷公園



芹ヶ谷公園再整備基本計画

2016年3月

～再整備のテーマ～

“まちなかで 人と緑が 出会い ふれあう 芸術の杜”

重点施策である**町田駅周辺のまちづくり**において、芹ヶ谷公園の魅力を一層向上させることで**新たな賑わい**を創出

町田駅利用者街頭アンケート

「**緑**が豊か」 **低評価**

(回答者の約3割にとどまる)

芹ヶ谷公園と
中心市街地との一体性が課題



2016年7月

「“夢”かなうまち」の実現に向けた取り組み

「夢」かなうまち」の実現に向けた具体的な取り組みとして、以下の10のプロジェクトを進めます。
状況の変化に応じて、プロジェクトの追加や内容の変更を行います。

- | | | | |
|---|---------------------------|----|------------------------------|
| 1 | 駅前空間大規模店舗魅力向上プロジェクト | 6 | 原町大通り憩いと賑わい空間を創造するプロジェクト |
| 2 | 個性と魅力あふれる商店街づくりプロジェクト | 7 | 駅からつながる水と緑の新たな都市空間づくりプロジェクト |
| 3 | 周辺資源をみがきまちの魅力として活かすプロジェクト | 8 | 様々なライフスタイルを支える多機能な場を育むプロジェクト |
| 4 | 快適で便利な交通ターミナルをつくるプロジェクト | 9 | 町田発アート・カルチャーを牽引するプロジェクト |
| 5 | 駅の玄関口のまちづくりプロジェクト | 10 | まちの魅力を情報発信プロジェクト |



芹ヶ谷公園
整備事業

町田駅周辺のまちづくりにおいて、
**芹ヶ谷公園の魅力をも
さらに向上**

人々が
集い憩う
交流する

(仮称)国際
工芸美術館
整備事業

“夢まち”
町田発アート・カルチャー
を楽しむプロジェクト
周辺資源をみがきまちの
魅力として活かすプロジェクト

モノレール

道路



一体的に考える

芹ヶ谷公園
“芸術の杜”
プロジェクト

ビジョン

地域の人にとっての憩いの公園であり、
市内外から多くの人を訪れる
町田市顔のひとつとなるような
"わざわざ訪れたくなる"
"何度でも訪れたくなる"
多彩な魅力に溢れている、
町田を訪れる目的となりえる場。

町田らしい
多様なアート・カルチャーを体現する
魅力的な企画やイベントが、
緑あふれる公園の空間や公園内施設、
まちなかと一体となって
展開されている。

行政だけでなく
多様な主体の参画による
高付加価値化、
広がりが生まれている。

芹ヶ谷公園の価値と資源

谷戸地形が残る場所

芹ヶ谷公園は恩田川へ注ぐ支流の浸食により形成された谷戸地形がそのまま残された公園です。斜面を覆う緑によって独特の囲われ感がつくられ、喧騒を感じさせない空間が保たれています。



谷がつくる緑や水の風景

斜面地にコナラやムクノキ等からなる落葉広葉樹林やシラカシなどの常緑樹林が分布しています。水路や湧水では湿生の植物も見られます。豊かな環境の中に様々な鳥類や昆虫類等も生息し、中心市街地周辺にしながら身近に自然を感じることができます。



谷底が人の集まる場所

豊かな自然を活かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっています。国際版画美術館をはじめとし、園内には芸術作品が展示され、アートを楽しめる場としても市民に親しまれています。多目的広場では年間を通じてイベントが開催され、市内外から多くの来園者が訪れるなど、賑わいのある空間が形成されています。



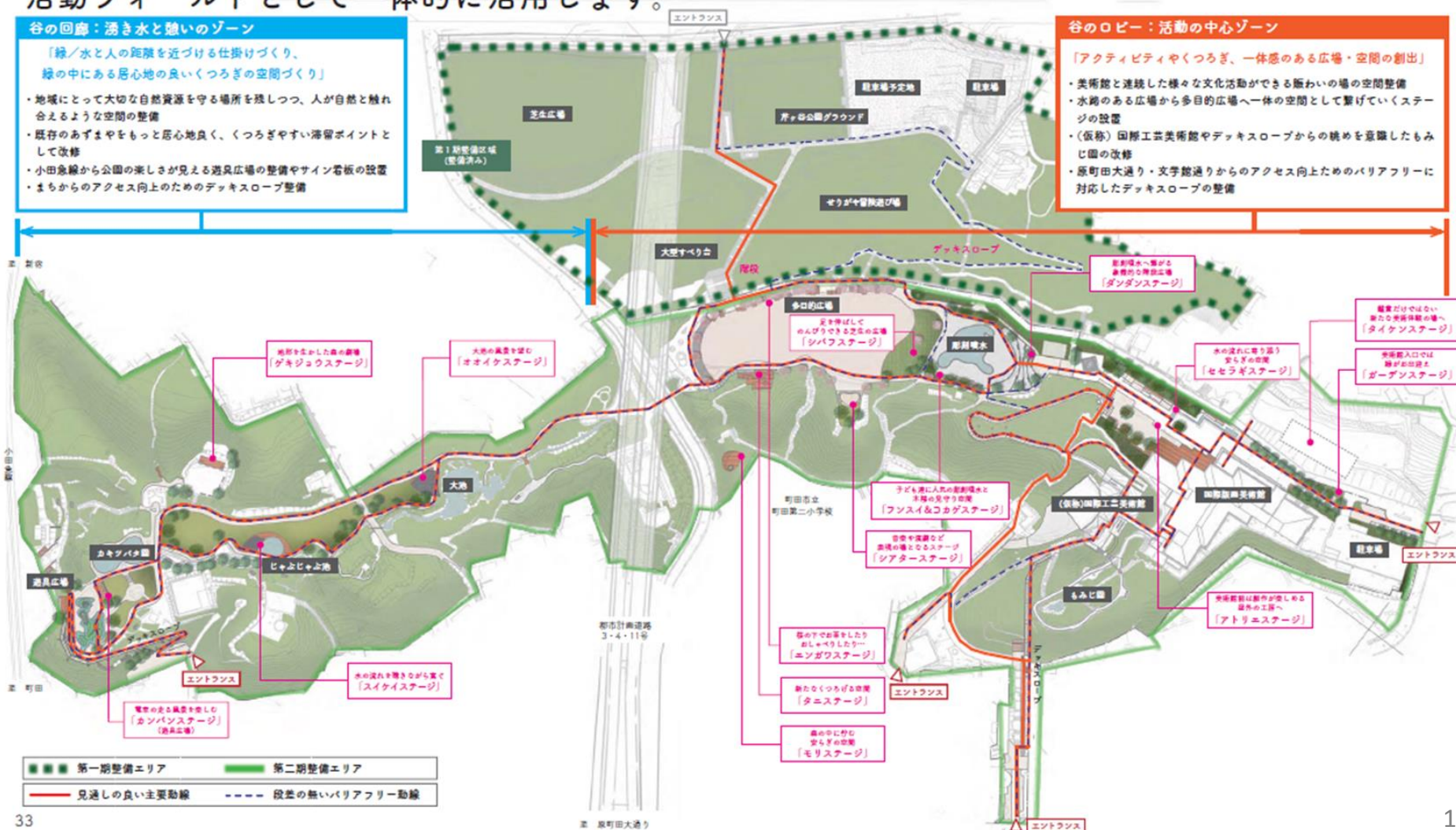
町田の自然と文化に出会える



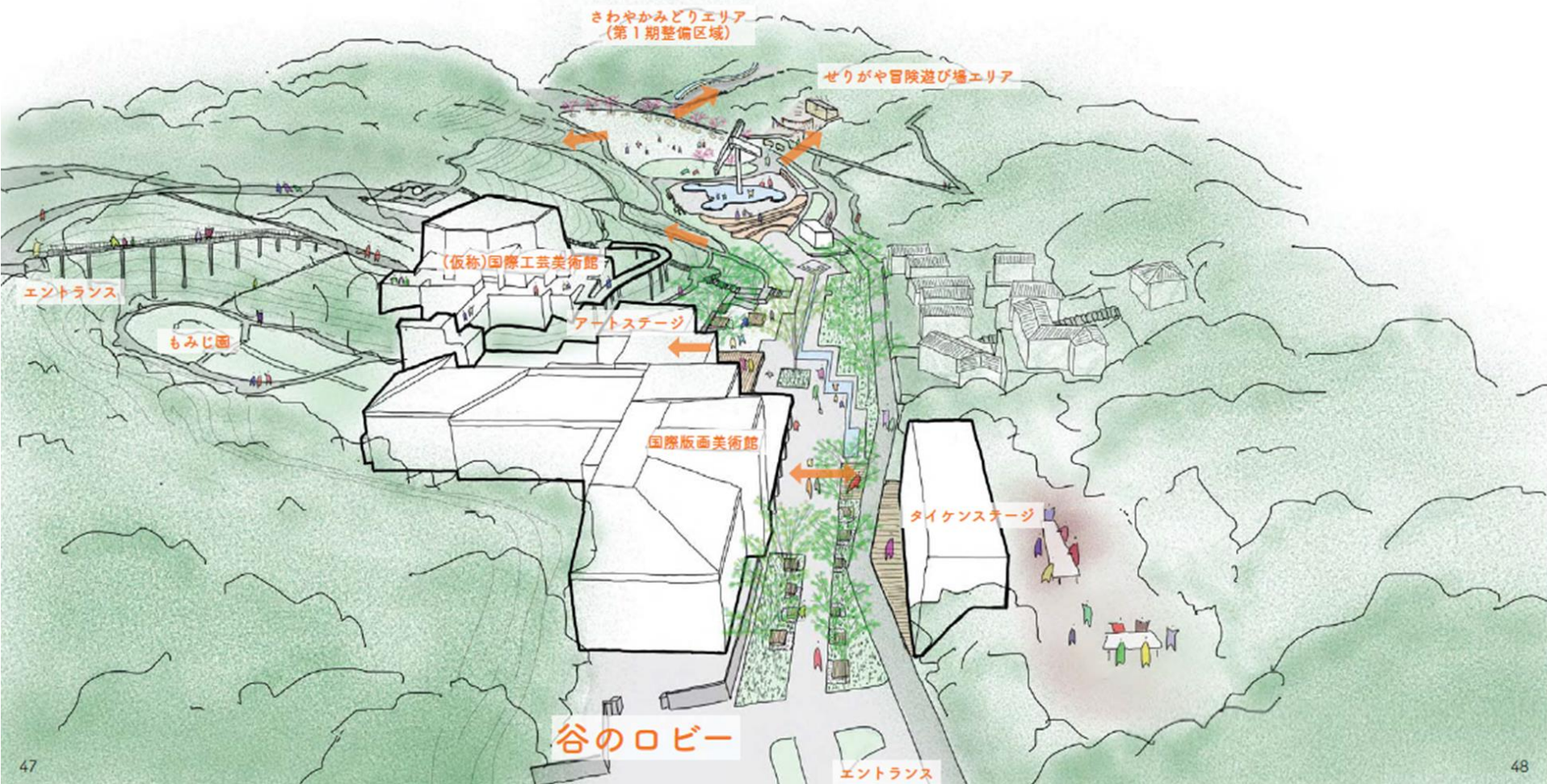
「谷のロビー」と「谷の回廊」を中心に、公園全体をパークミュージアムの活動フィールドとして一体的に活用します。

- ・地域にとって大切な自然資源を守る場所を残しつつ、人が自然と触れ合えるような空間の整備
- ・既存のあずまやをもっと広心地良く、くつろぎやすい滞在ポイントとして改修
- ・小田急線から公園の楽しさが見える遊具広場の整備やサイン看板の設置
- ・まちからのアクセス向上のためのデッキスロープ整備

- ・美術館と連続した様々な文化活動ができる賑わいの場の空間整備
- ・水路のある広場から多目的広場へ一体の空間として繋げていくステージの設置
- ・(仮称)国理工芸美術館やデックスロップからの眺めを意欲したもみじ園の改修
- ・原町田大通り・文学館通りからのアクセス向上のためのバリアフリーに対応したデックスロップの整備



1 本プロジェクトのこれまでの経緯・取組み

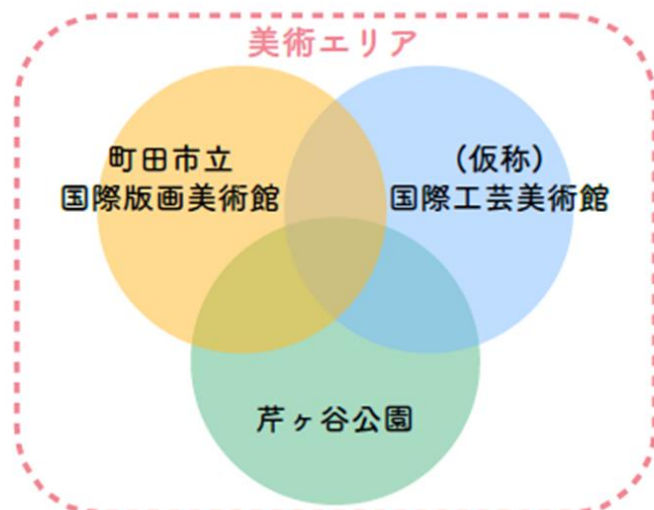


47

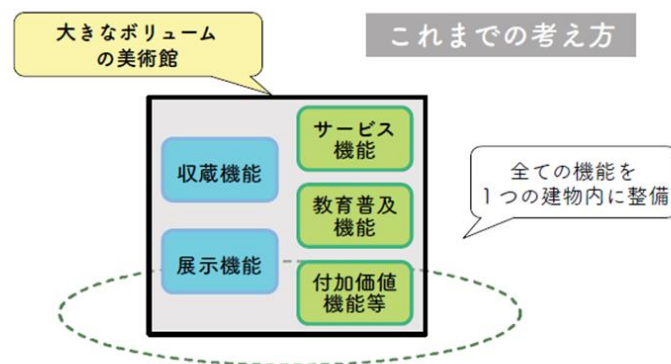
48

1 本プロジェクトのこれまでの経緯・取組み

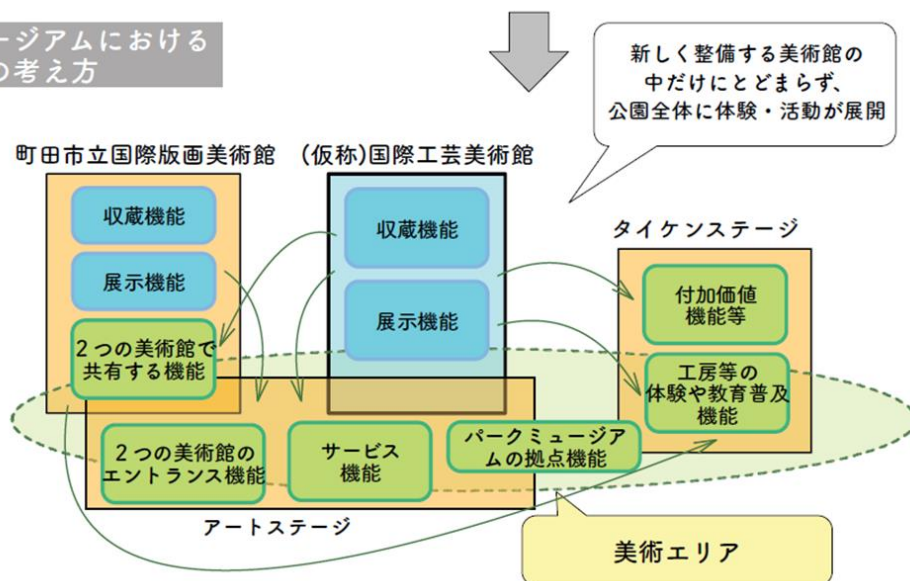
新しく整備する(仮称)国際工芸美術館は、町田市立国際版画美術館と共に公園と連続した「美術エリア」を形成し、パークミュージアムへ美術活動を展開するための拠点となります。



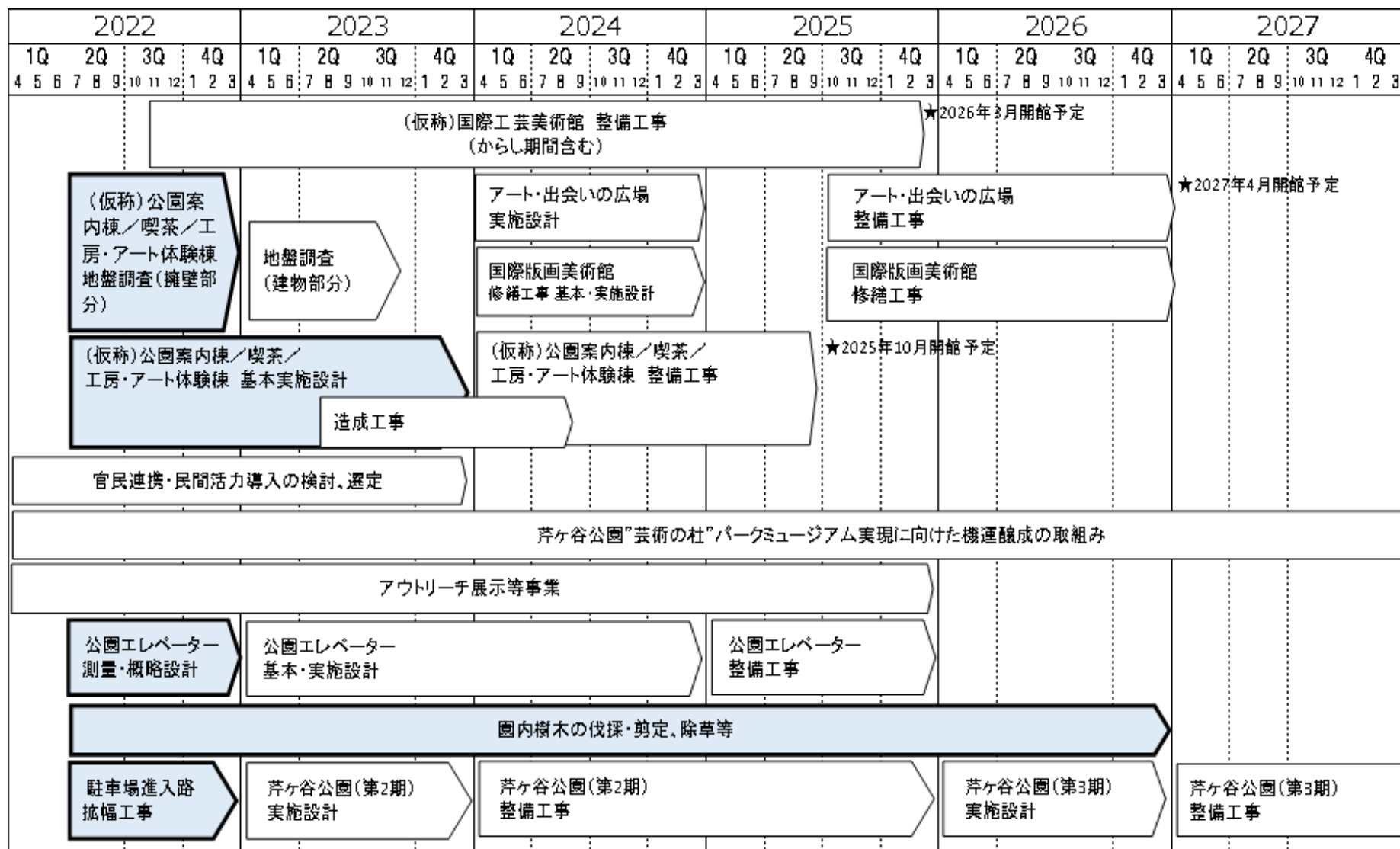
- ・町田市立国際版画美術館、(仮称)国際工芸美術館、公園の3つが一体となり、美術を介してコミュニティを育むための拠点を整備する。
- ・公園と連続した回遊性を確保し、公園を訪れた市民へ身近な美術体験を促す。
- ・機能や空間の連携・共有により、総合的な価値の向上や、機能の強化を図る。



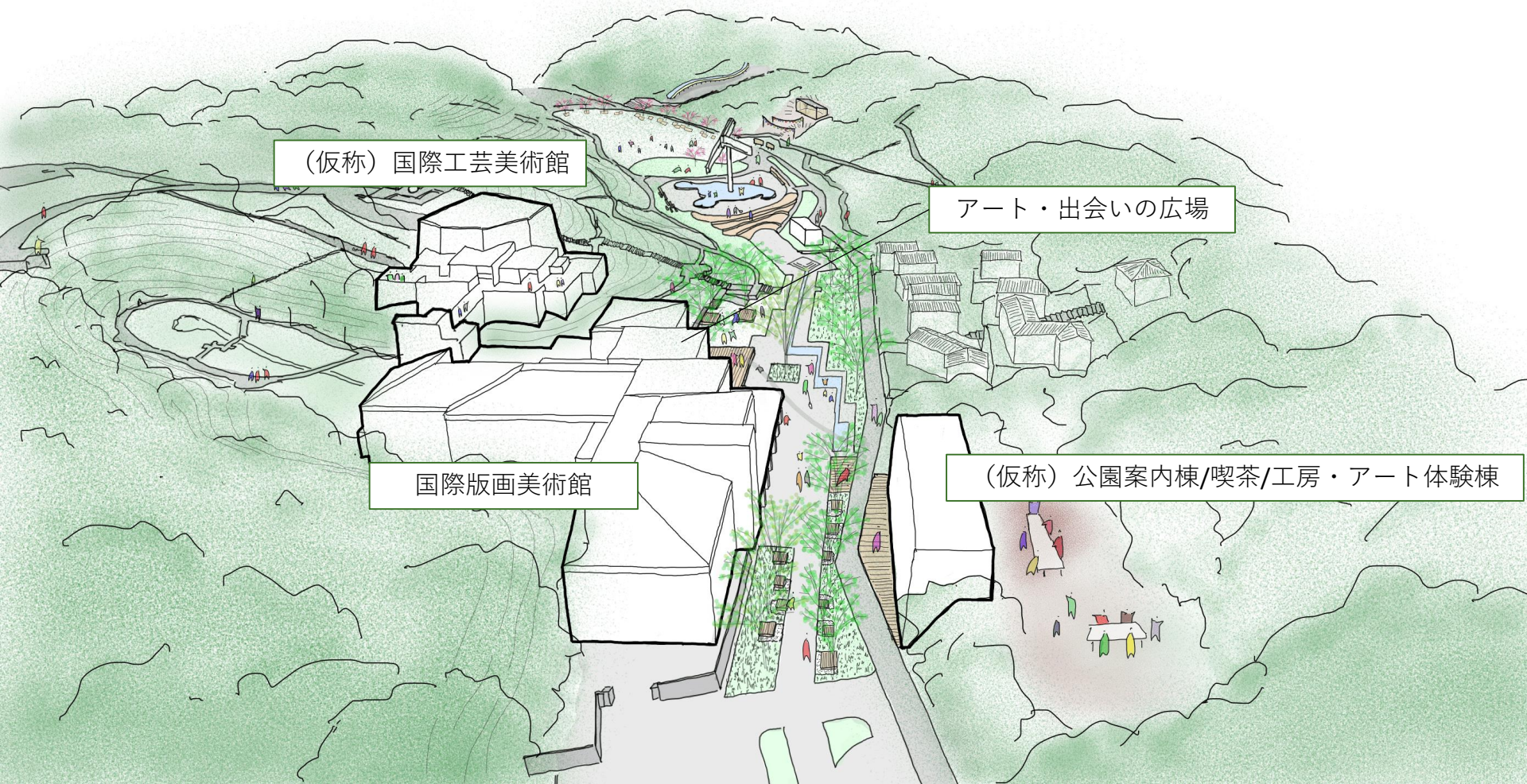
パークミュージアムにおける美術エリアの考え方



2 整備スケジュール



3 芹ヶ谷公園 谷のロビー整備計画



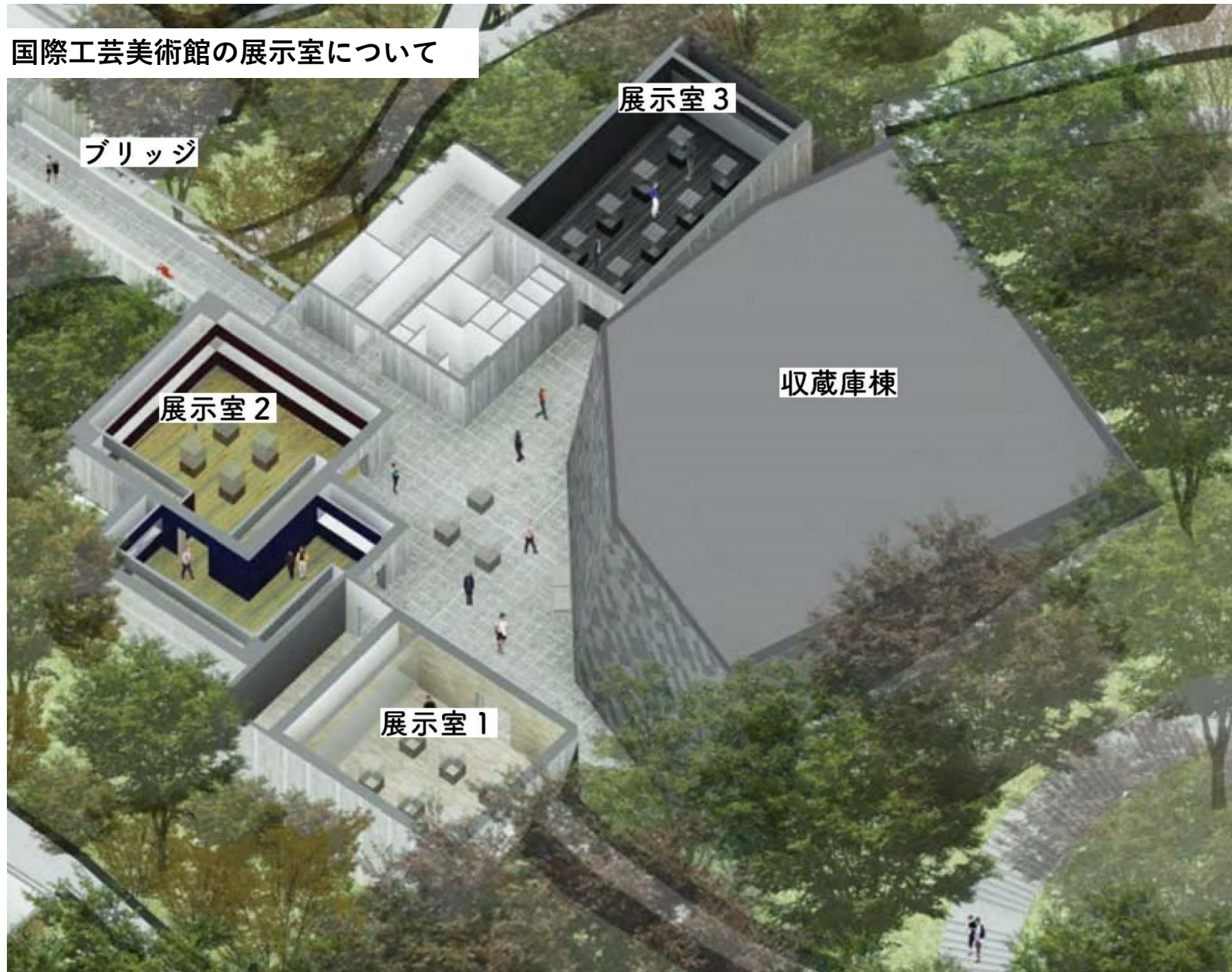
4 2つの美術館の一体的な整備 - (仮称) 国際工芸美術館

谷のロビーから (仮称) 国際工芸美術館を眺めるイメージ



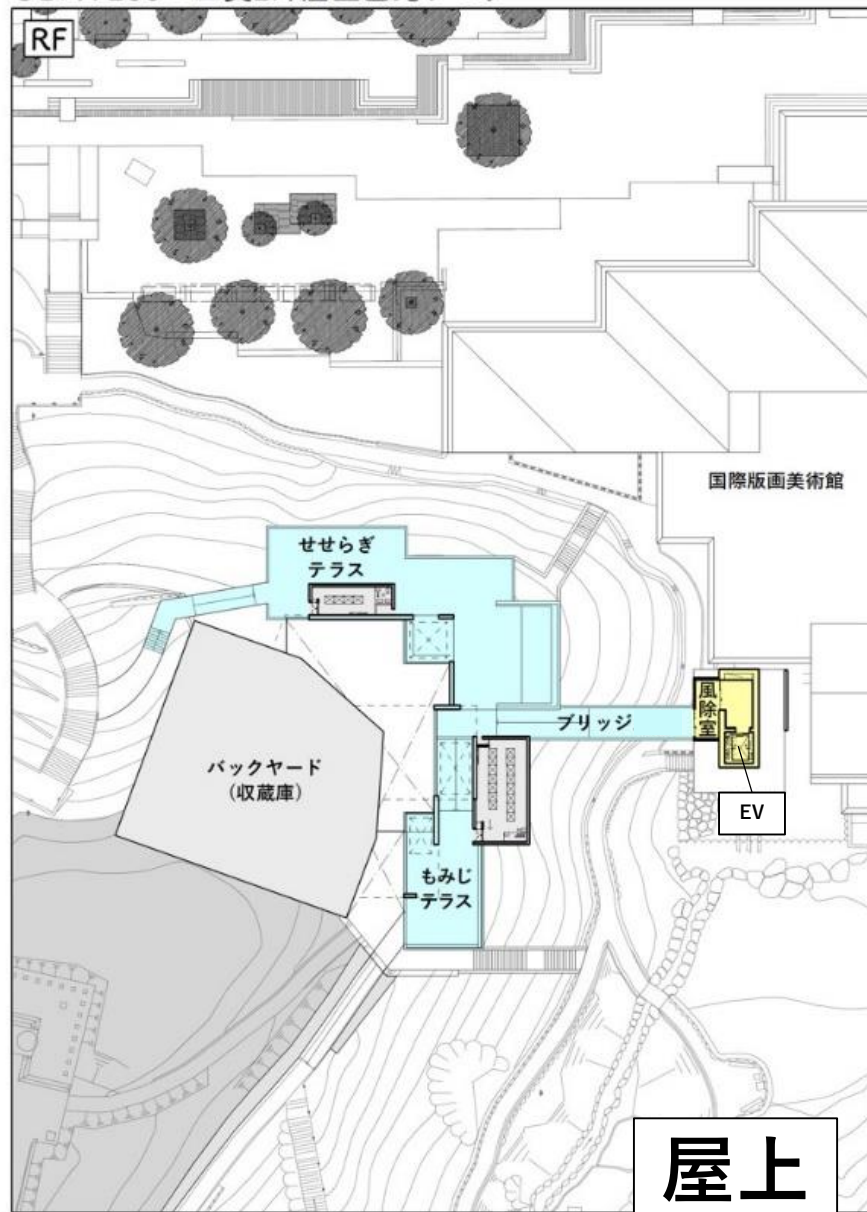
4 2つの美術館の一体的な整備 - (仮称) 国際工芸美術館

(仮称) 国際工芸美術館の展示室について



4 2つの美術館の一体的な整備

GL+17200：工美2F/屋上園路フロア



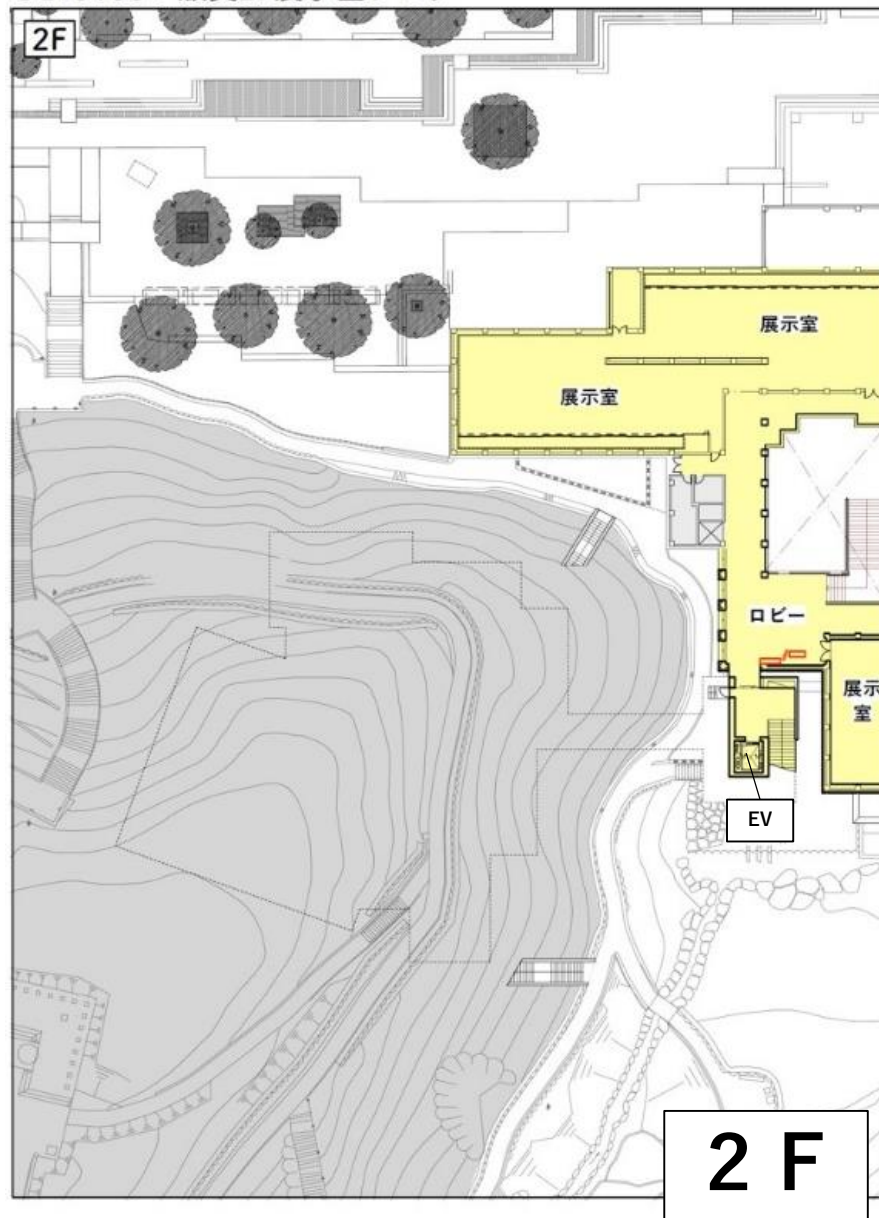
GL+10300：工美1F展示室フロア

■ 屋内 ■ 屋外(屋上) ■ 半屋外

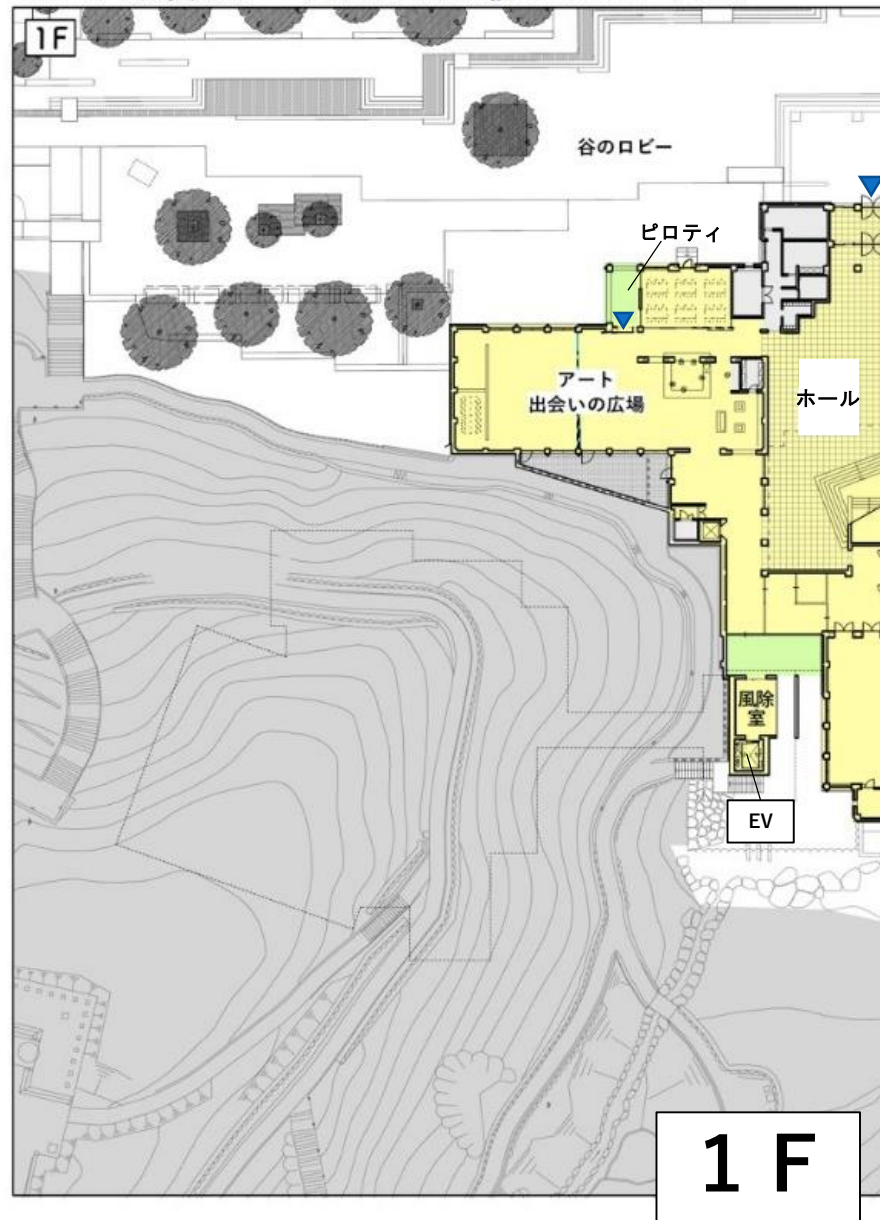


4 2つの美術館の一体的な整備

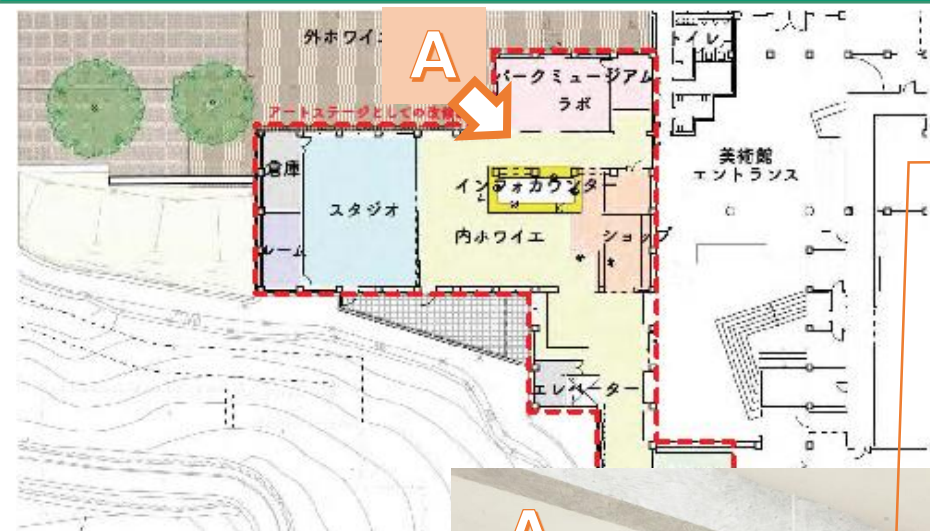
GL+5100：版美2F展示室フロア



GL±0：版美1Fアート出会いの広場/谷のロビーフロア



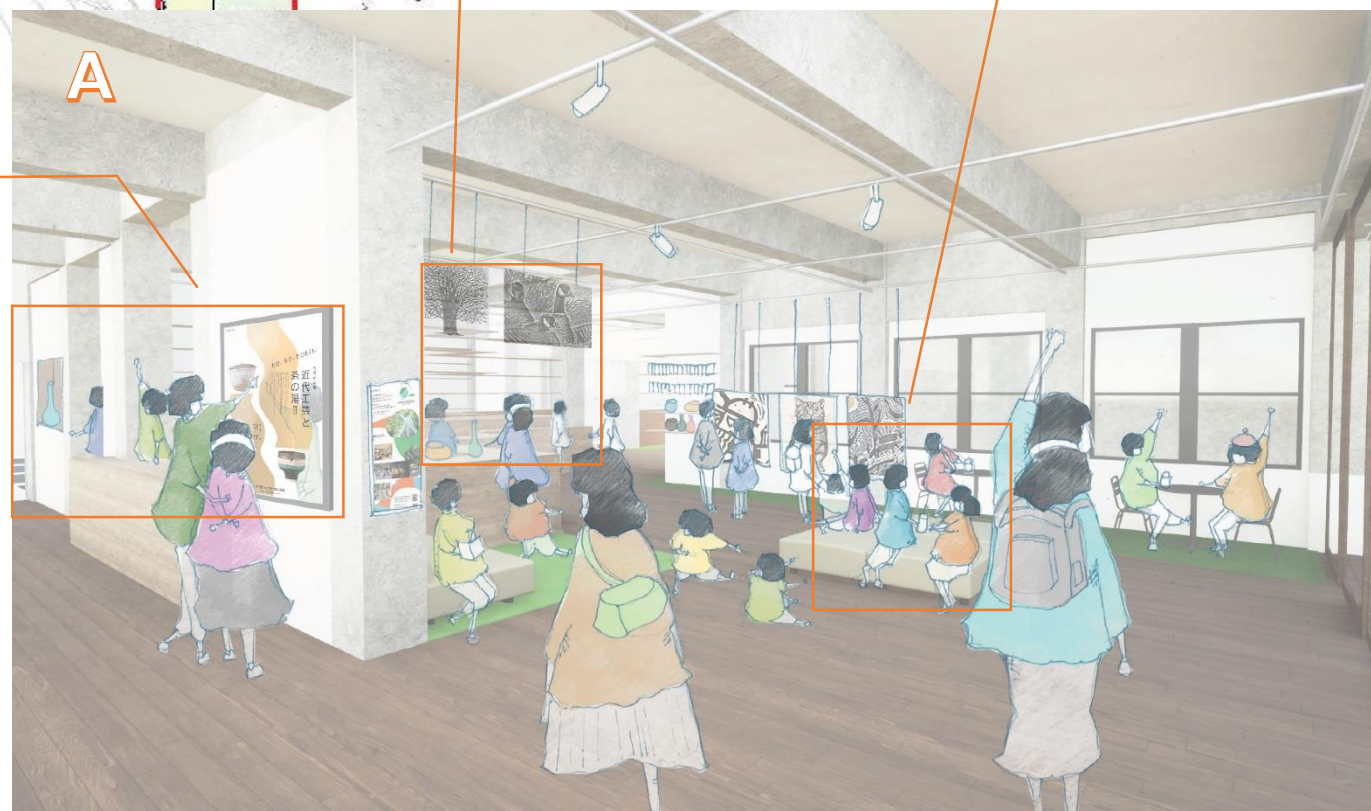
4 2つの美術館の一体的な整備 -アート・出会いの広場



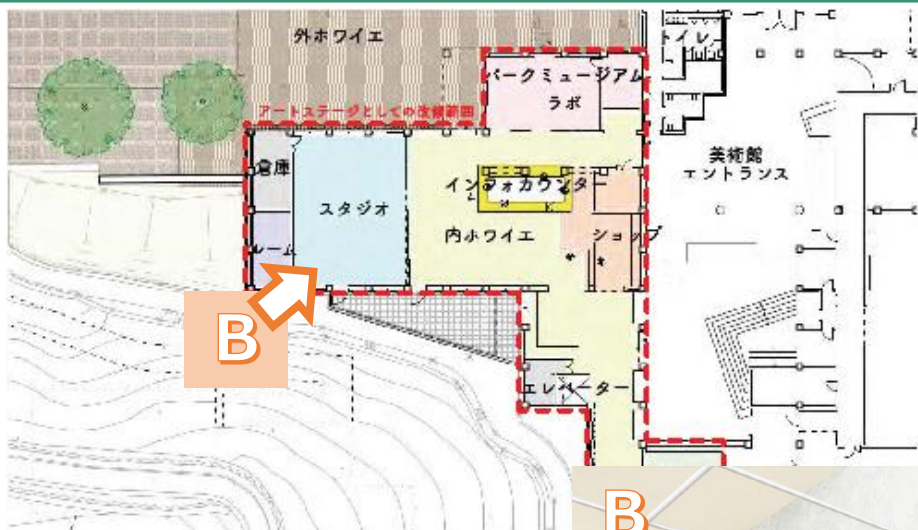
- 導入展示として常設・企画展に関連する展示をすることで、美術館のエントランスとして、これから展示を観る方が、展示室に行くまでの気分を高めたり、別の目的で訪れた方が、導入展示をきっかけとして、常設・企画展への来場を促すPRの場でもあります。
- ミュージアムショップでは、両館に関連した商品が購入できるほか、座って一息つけるように飲み物の提供も想定しています。

- アート・出会いの広場を通じて、美術館に訪れた方も、これまで美術館に来館する機会が無かった方でも居心地の良い空間、居場所となります。

- 両館の総合案内を行うインフォカウンターは、公園に来園された方、美術館に来館された方を迎える顔として、コンシェルジュのような役割を担います。
- そのなかでデジタルサイネージを使用して、市民の方が気軽に展示やイベント、アート活動といった様々な情報を知ることができるようにします。



4 2つの美術館の一体的な整備 -アート・出会いの広場



- 美術館、美術品との距離を縮めるため、レクチャールームとして使用することは、有効な使い方の一つだと考えています。
- 展示室での解説だけではなく、開けた空間で気軽にギャラリートークを聞くことができます。
- 来館者の方のもっと知りたい、気軽に楽しみたいという気持ちや、学芸員の多くの方に伝えたいという気持ちをつなぐ場としての役割を担っています。

- 両館の企画展の導入展示としての使用はもちろん、市民の方の発表・表現の場としての使用も想定しています。
- これまで展示室内では行うことができなかった参加型のワークショップや、音を出した展示、パフォーマンスなど様々な用途に使うことができます。
- その他に、市民の方等の芹ヶ谷公園で行いたい活動を支える拠点として、打ち合わせスペースや活動の準備、発表・展示ができる場を設けることで、公園と美術館をつなぐシームレスな場となることを目指しています。



5 パークミュージアム会議における変更計画の概要



37

38

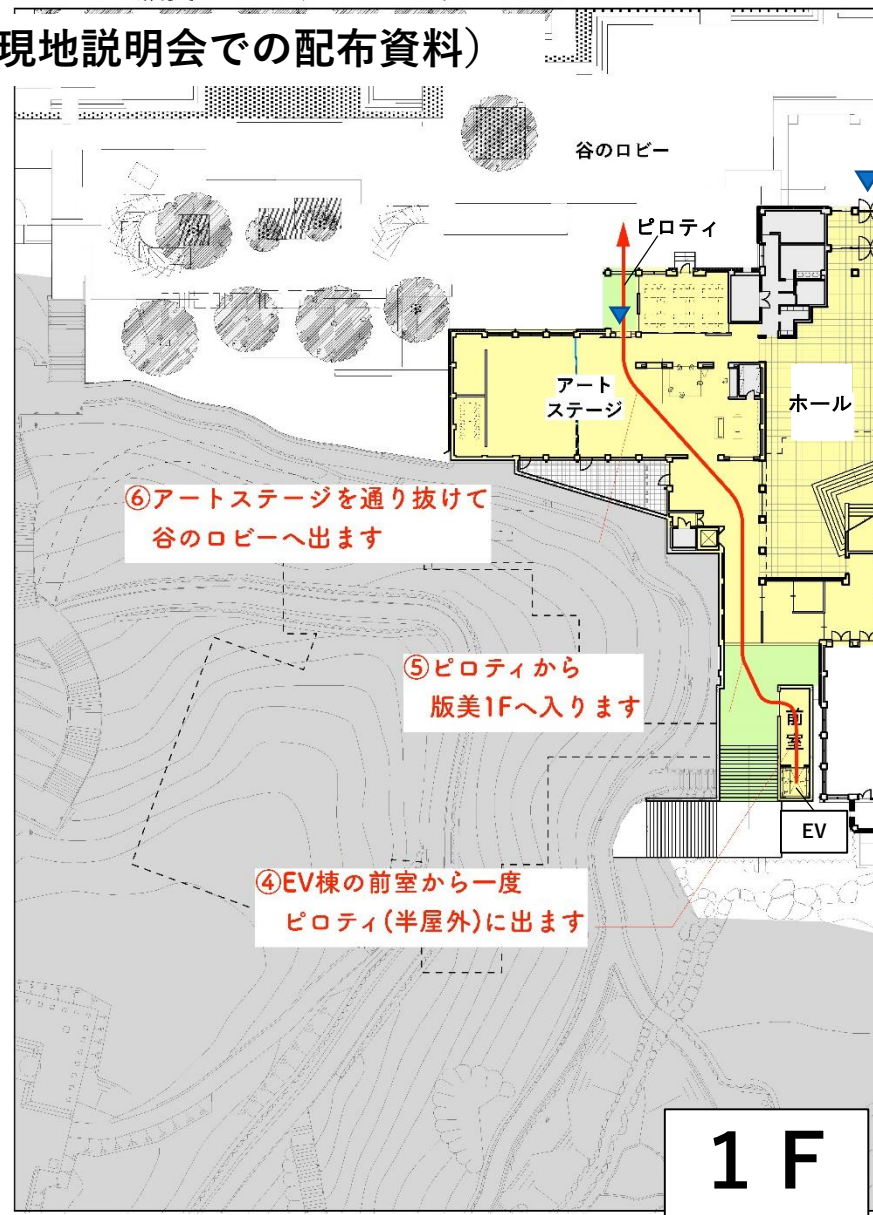
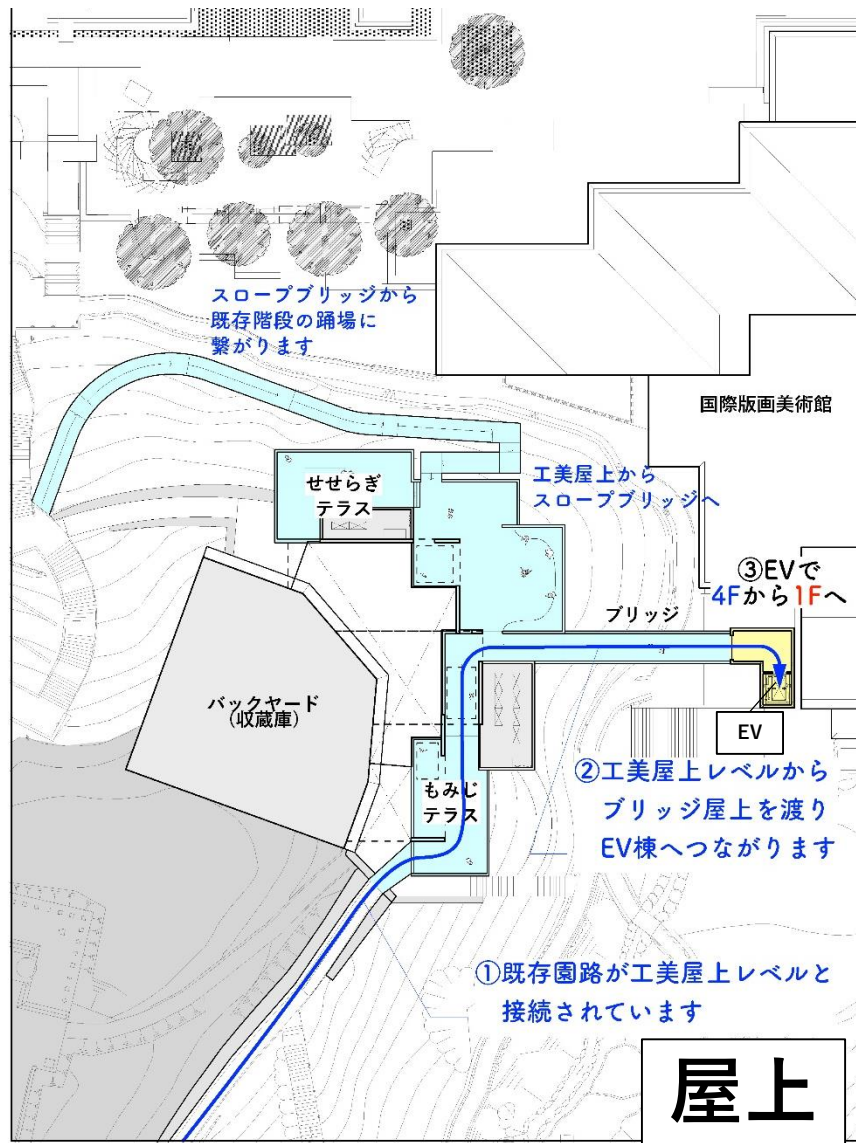
5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

GL+17200：工美2F/屋上園路フロア

■ 屋内 ■ 屋外(屋上) ■ 半屋外

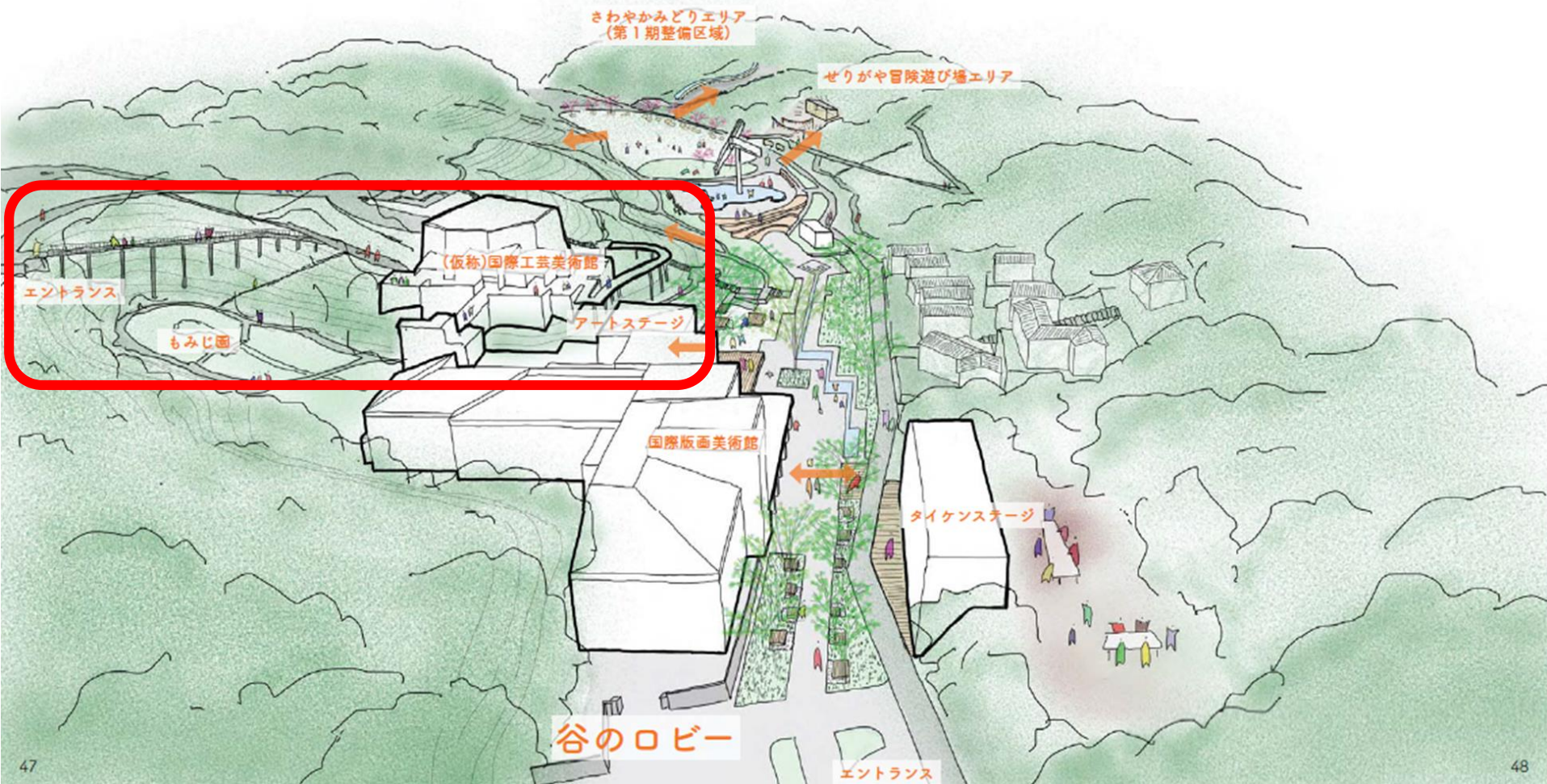
GL±0：版美1Fアートステージ/谷のロビーフロア

バリアフリールートの整備について（2021年5月現地説明会での配布資料）



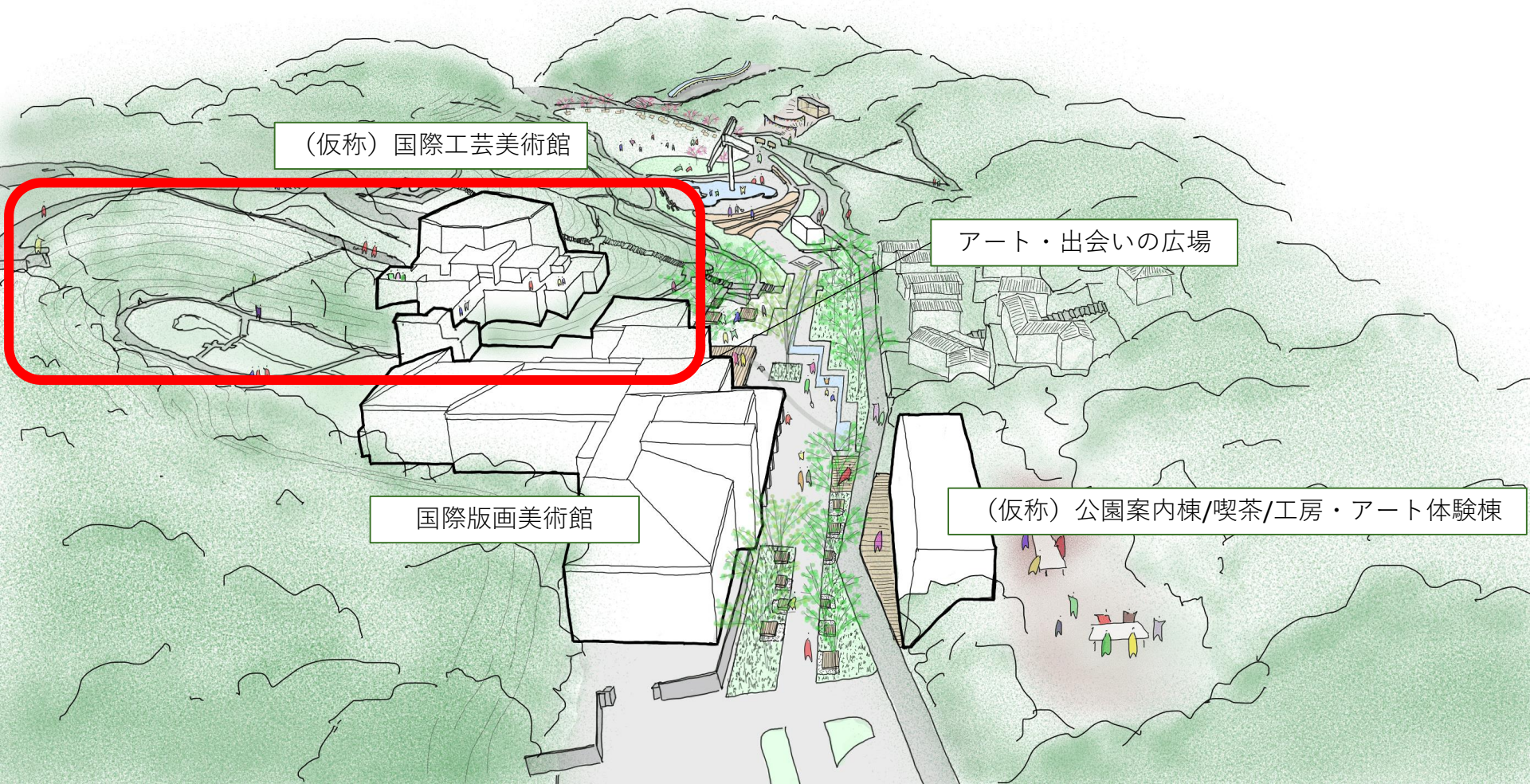
5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

バリアフリールートの整備について（変更前イメージ）



5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

バリアフリールートの整備について（変更後イメージ）



5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

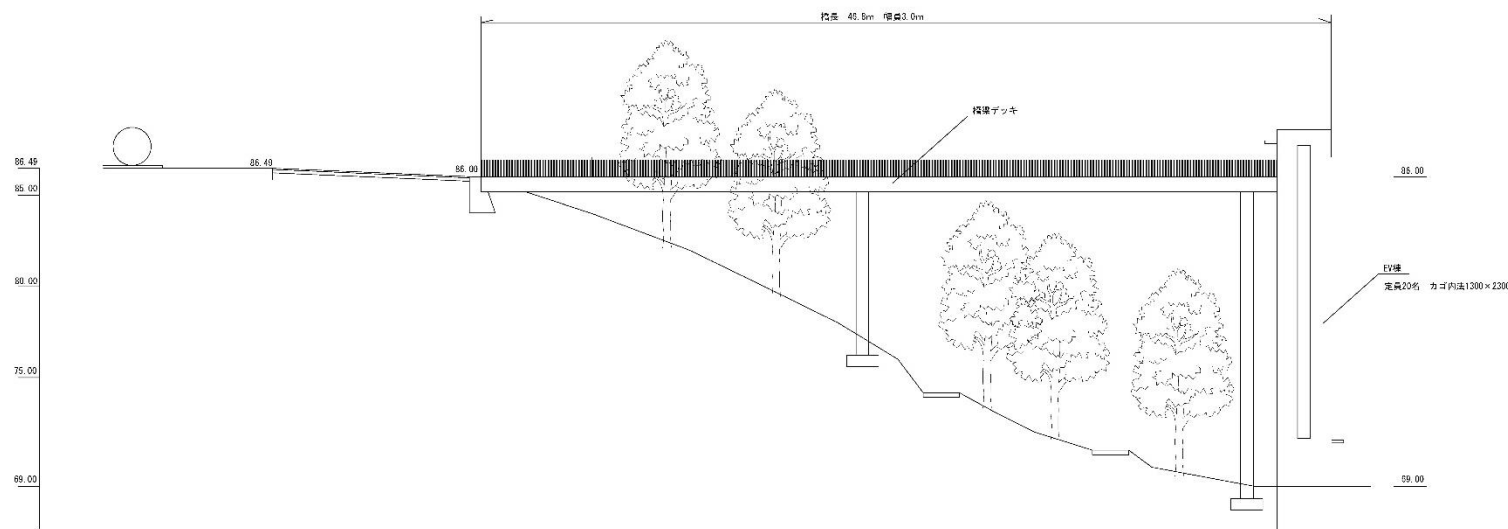
バリアフリールート整備について（公園内の高低差を解消するエレベーター）



5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

バリアフリールート of 整備について（公園内の高低差を解消するエレベーター）

橋梁デッキ・エレベータ棟立面図 S=1:250



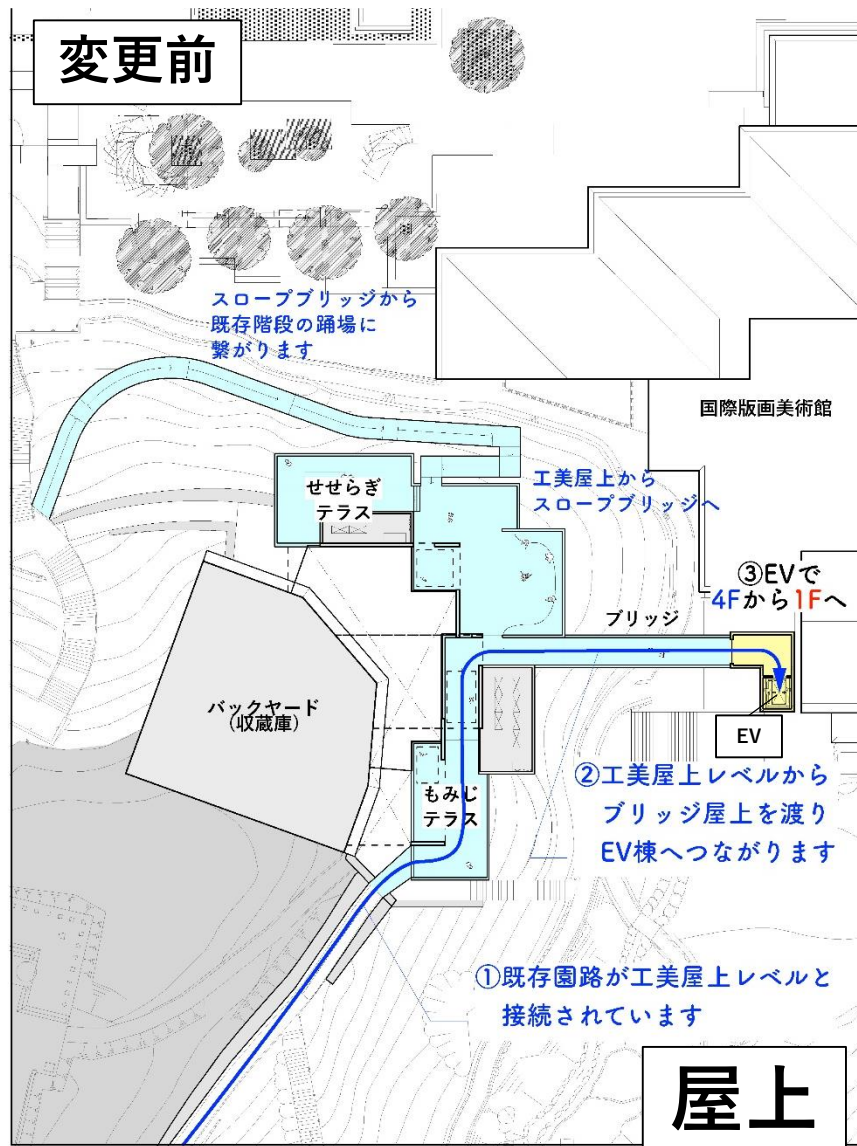
5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

GL+17200：工美2F/屋上園路フロア

■ 屋内 ■ 屋外(屋上) ■ 半屋外

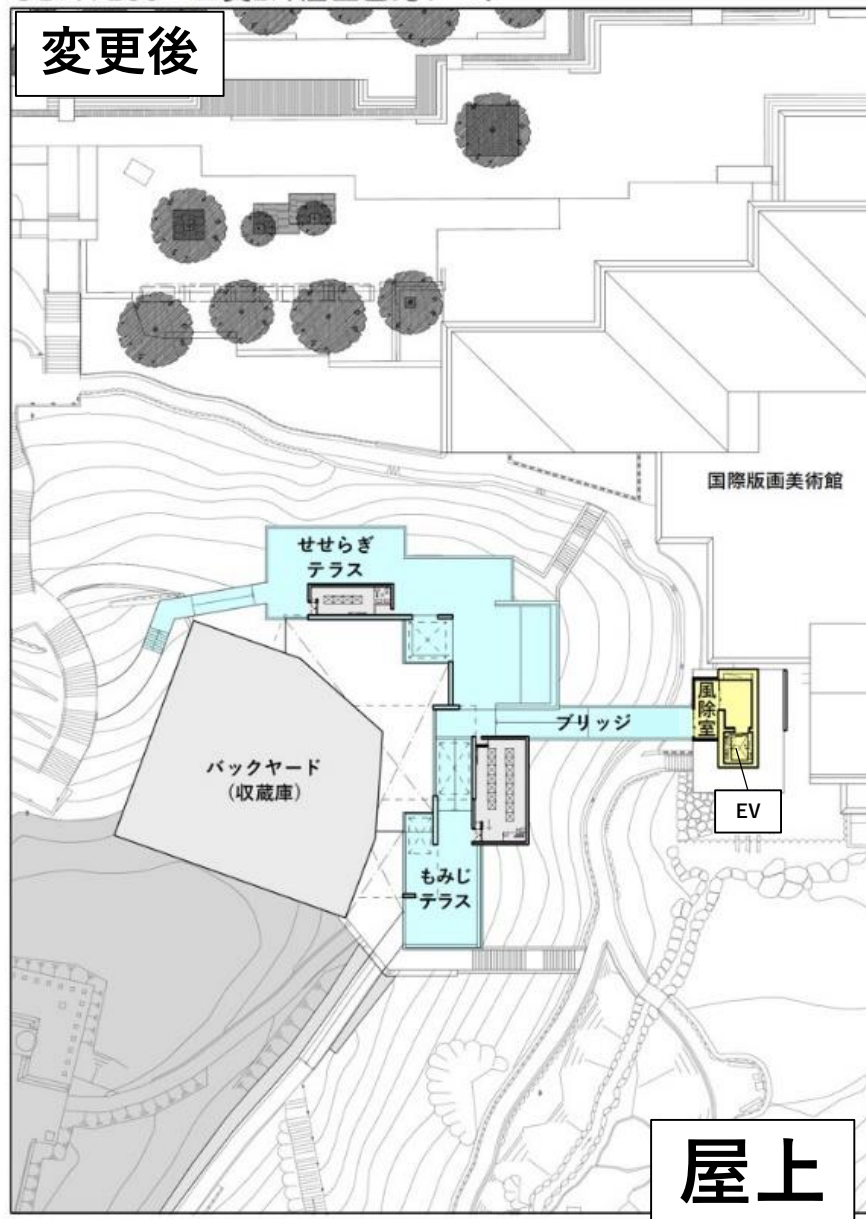
2つの美術館をつなぐエレベーターについて

変更前



GL+17200：工美2F/屋上園路フロア

変更後

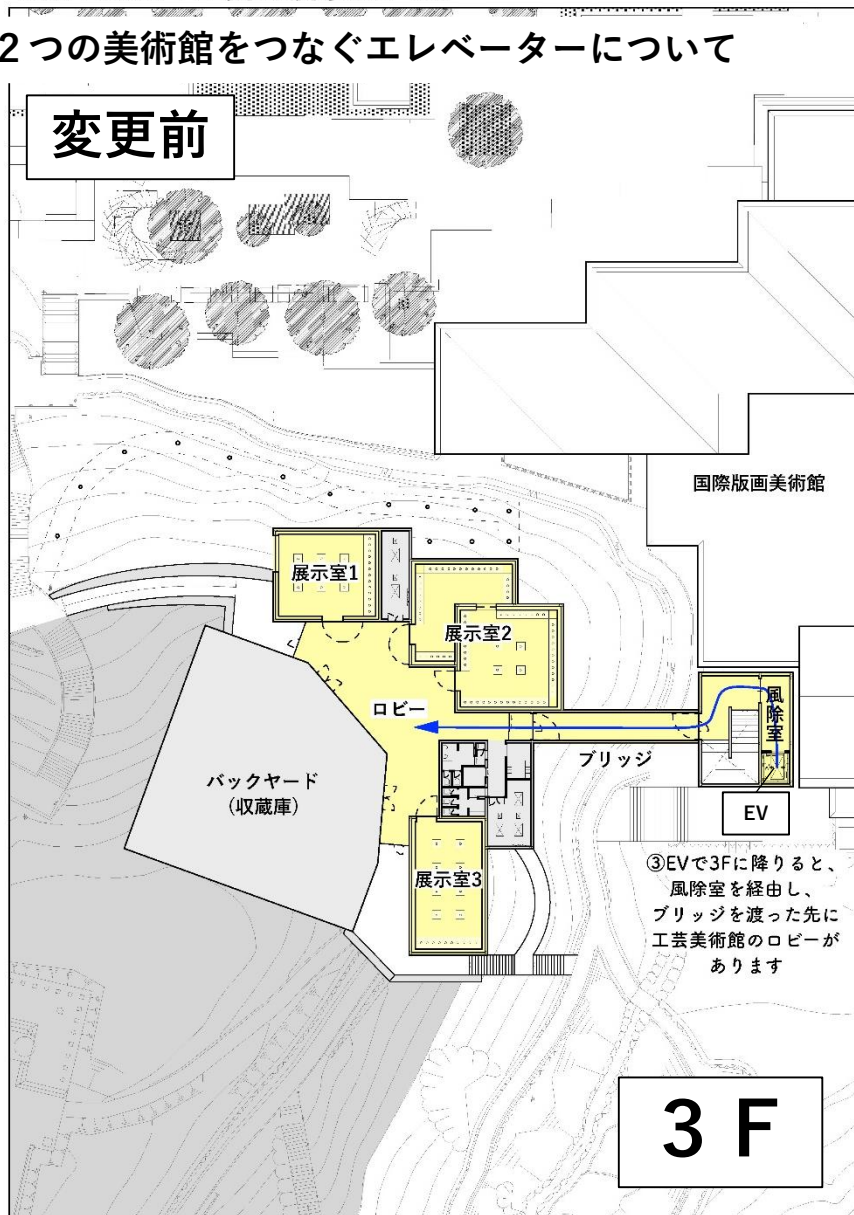


5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

GL+10300：工美1F展示室フロア

2つの美術館をつなぐエレベーターについて

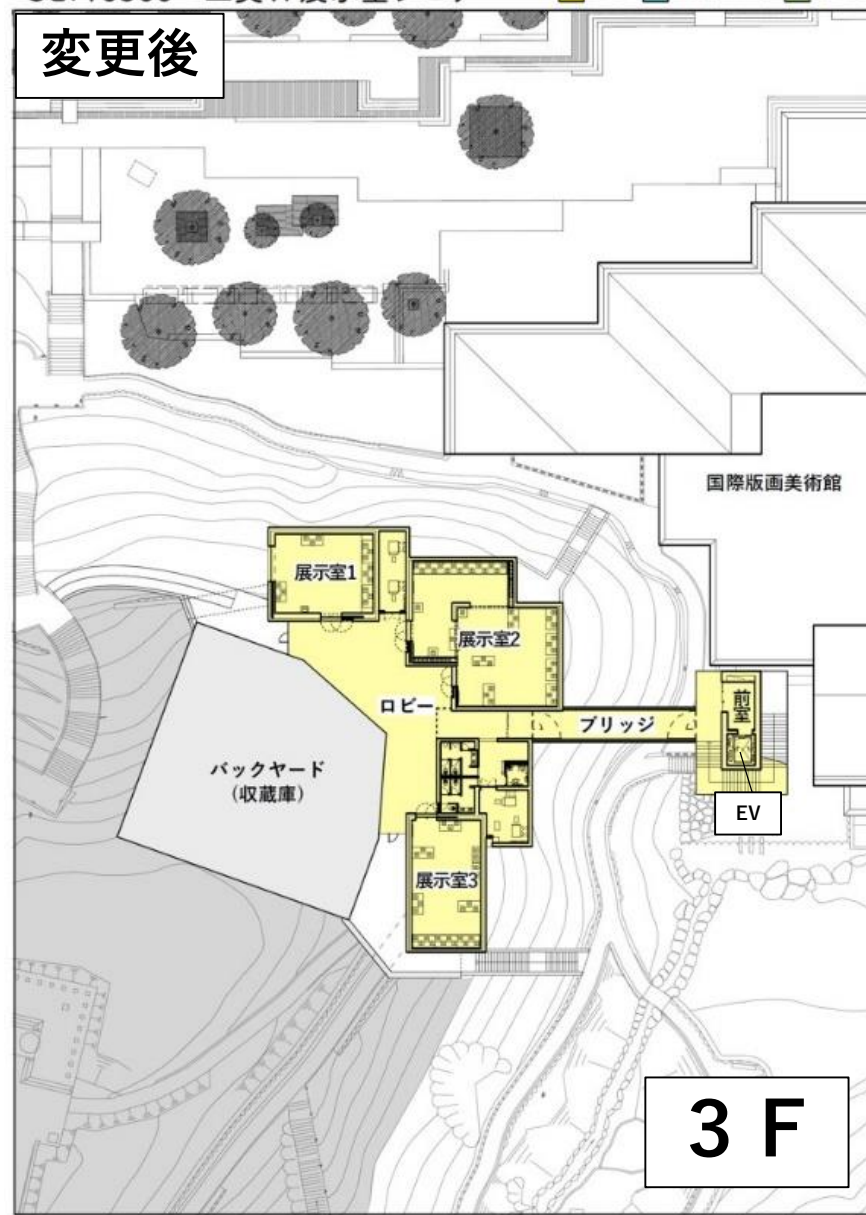
変更前



GL+10300：工美1F展示室フロア

■ 屋内 ■ 屋外(屋上) ■ 半屋外

変更後

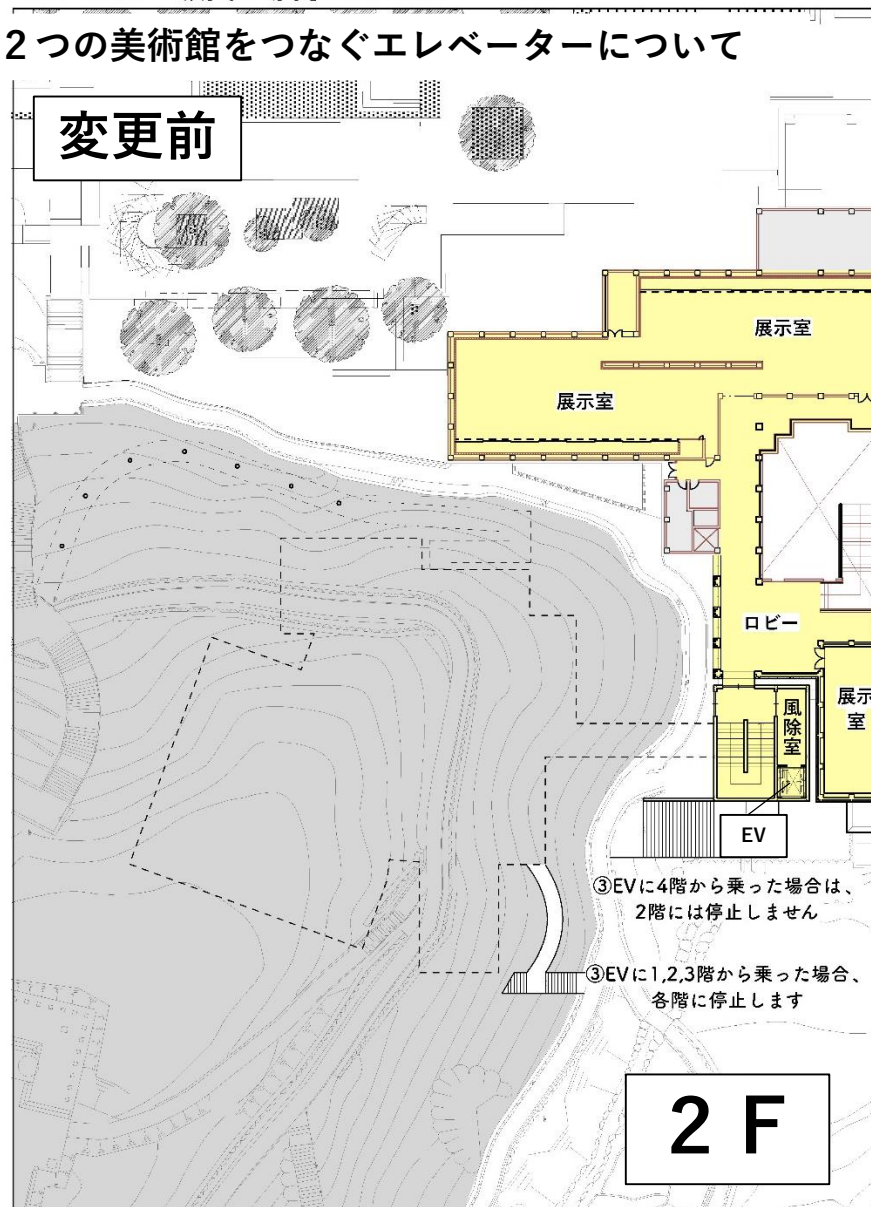


5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

GL+5100：版美2F展示室フロア

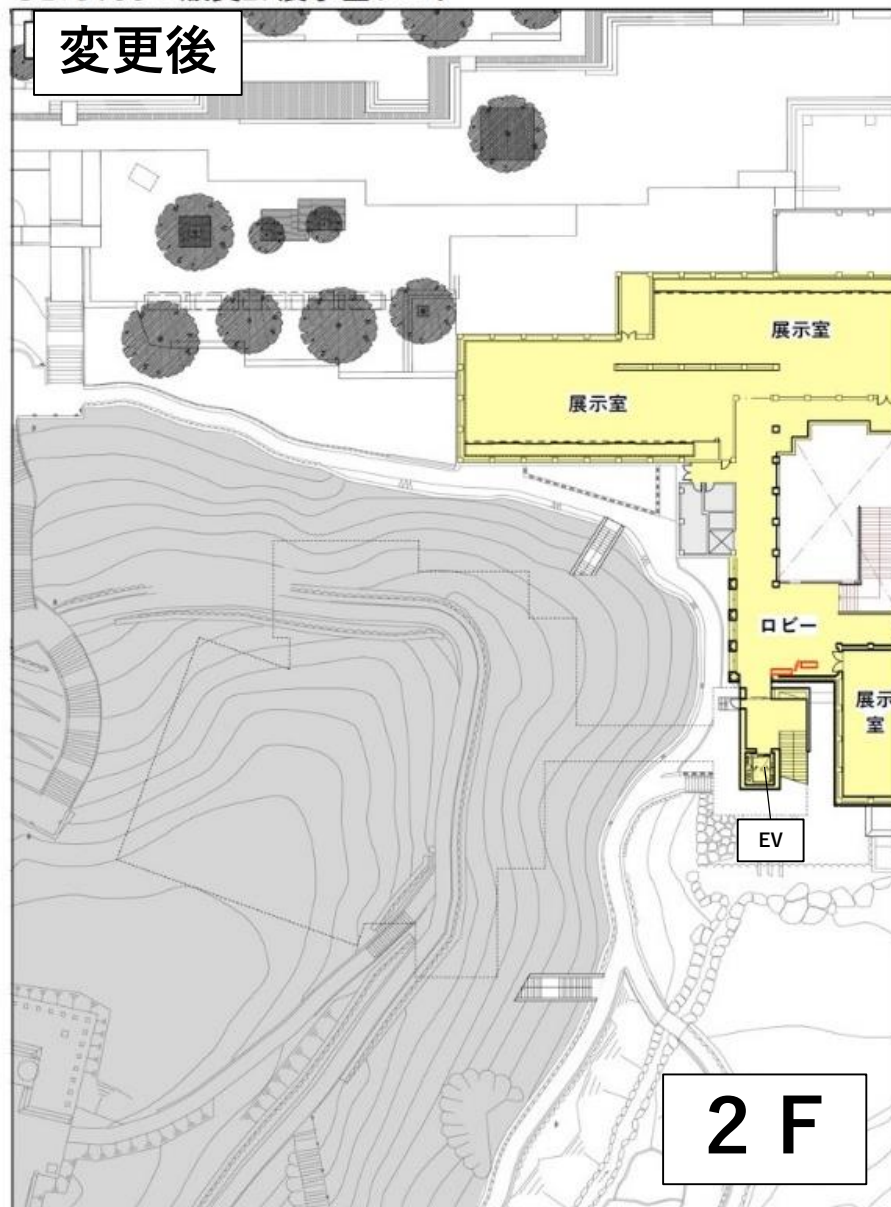
2つの美術館をつなぐエレベーターについて

変更前



GL+5100：版美2F展示室フロア

変更後

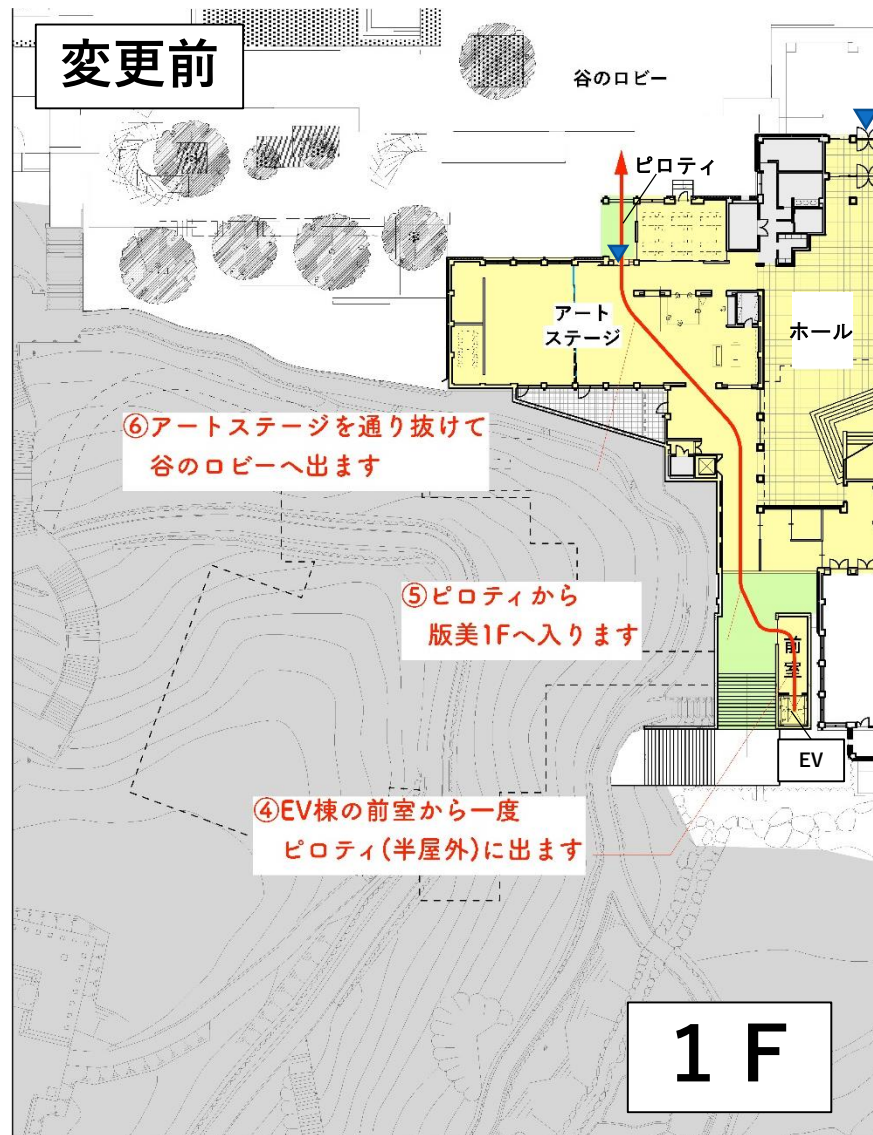


5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

GL±0：版美1Fアートステージ/谷のロビーフロア

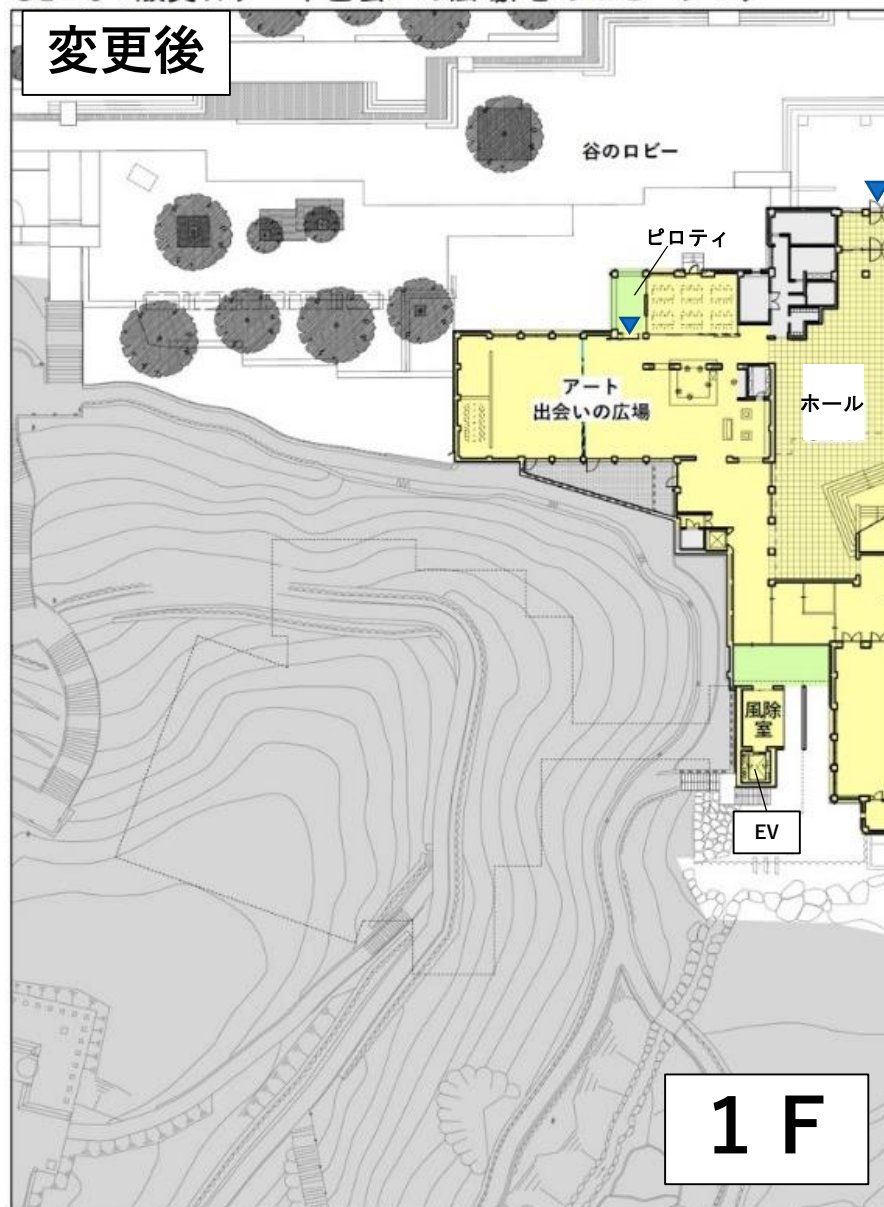
2つの美術館をつなぐエレベーターについて

変更前



GL±0：版美1Fアート出会いの広場/谷のロビーフロア

変更後



5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

アングル1



2つの美術館をつなぐエレベーターについて

アングル2



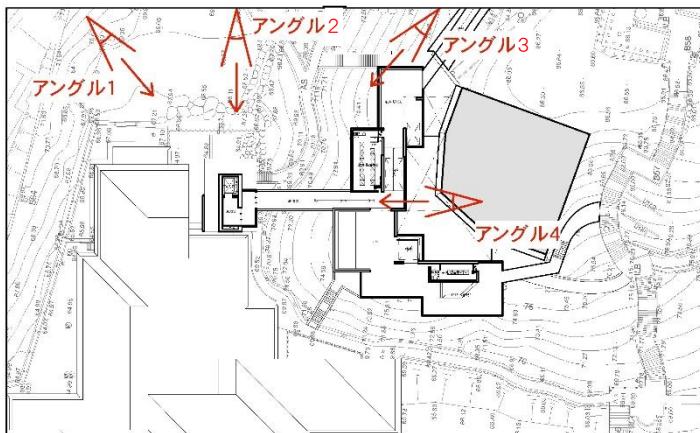
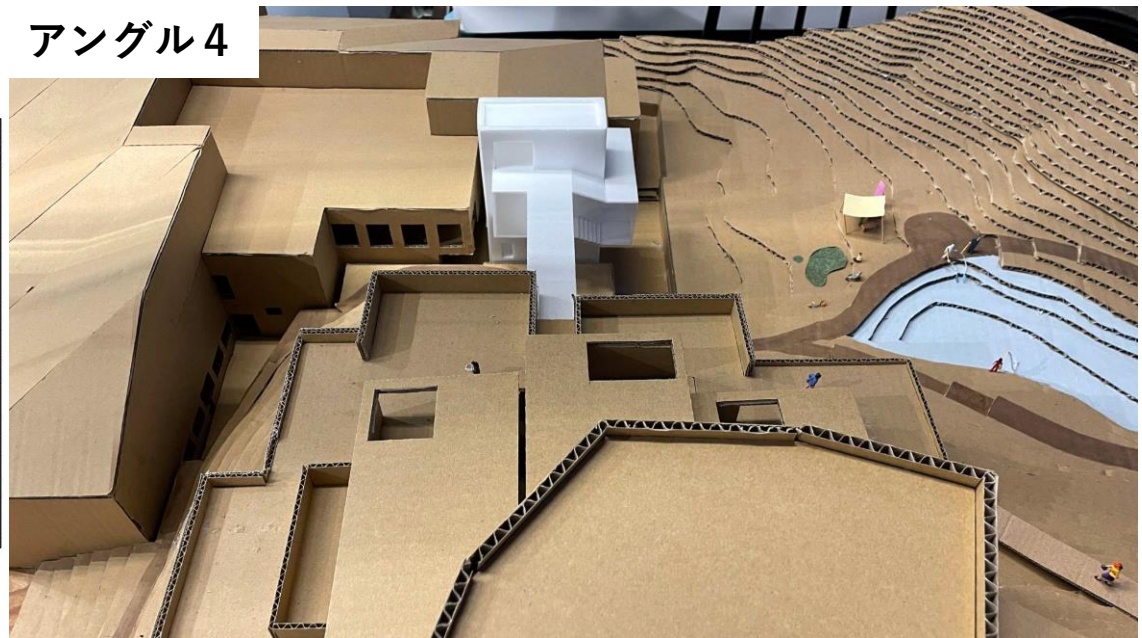
5 パークミュージアム会議における変更計画の概要

アングル3

2つの美術館をつなぐエレベーターについて



アングル4



(仮称) 公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟
基本計画概要(案)

（仮称）公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の基本計画策定の背景

すべてにおいてオンライン化が進む今、人々の関心は、モノの消費からコトの消費へと変わってきています。体験や経験に価値を感じ、それをだれかと共有しともに楽しむこと。その体験が気軽に楽しめるものであったり、「ここでなきゃ」と思えるものであること、それが人々を惹きつけます。

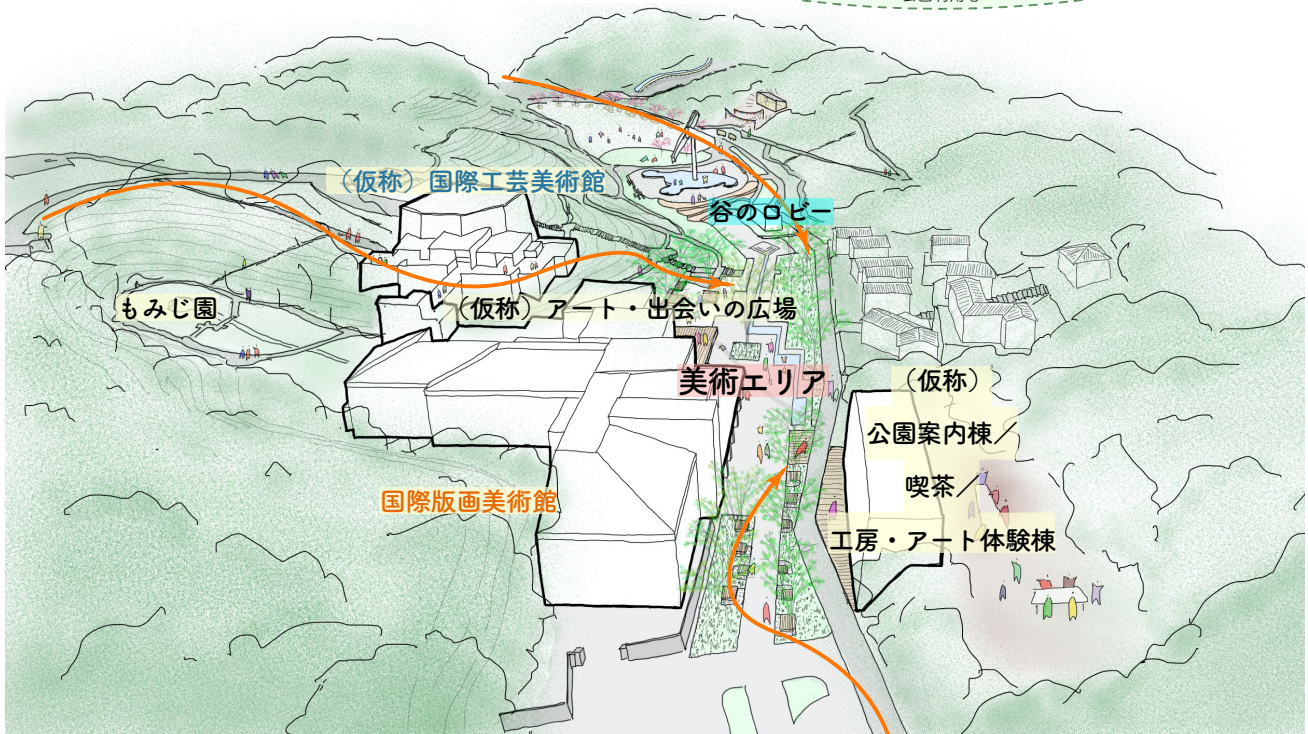
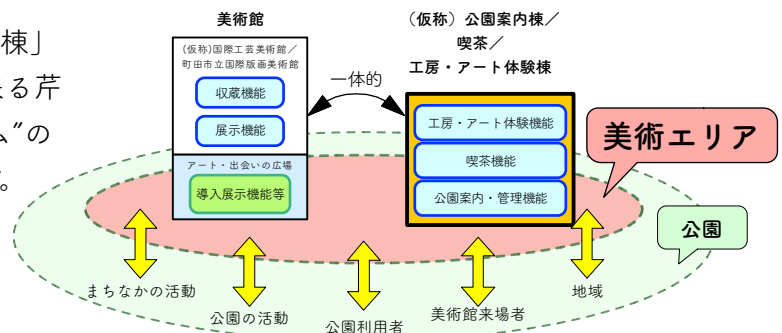
公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟は、パークミュージアムへの玄関口であり、公園来園者、施設利用者、周辺地域の方々などを始め、パークミュージアムに興味を持つ全ての人々へ開かれた施設です。

豊かなみどりと二つの美術館を望むように建つ建物は、施設内の雰囲気が外部からも感じられ、人の活動の様子や雰囲気を体感できます。「自分も工房を利用してみよう」「自分も芹ヶ谷公園に繰り出して何か新しいことをやってみよう」といった興味・関心・感動の“種”を育て、心を養うきっかけづくりができる空間となります。

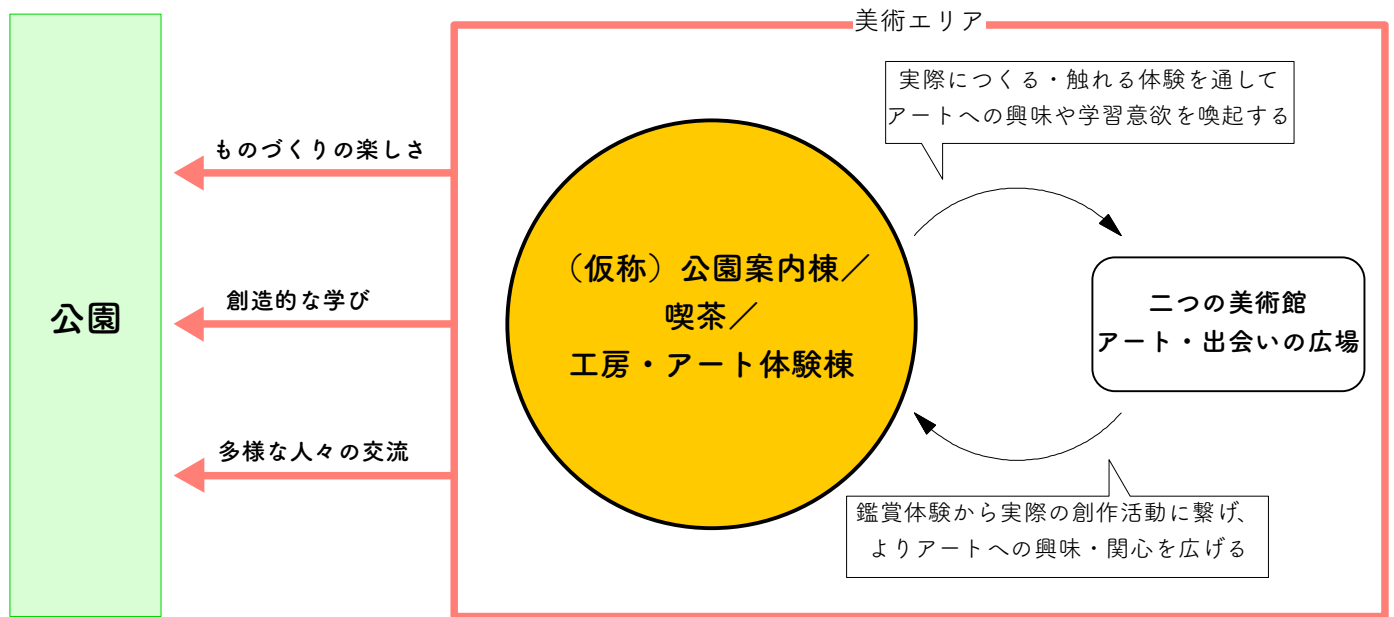
そして、この建物から、人々が“種”をもって芹ヶ谷公園へ行くことで、自分だけのお気に入りの場所で寛ぐ、広場で遊ぶ、みどりを感じながら創作活動に打ち込む、芹ヶ谷公園ならではのアートを発見するなど、色とりどりのアートや活動が芽吹き、素敵な風景が公園全体に広がっていきます。

また、1987年の開館以来、国際版画美術館は「鑑賞」「創作」「発表」の機能を一体的に提供するという役割を担ってきました。版画に加えてガラスや陶磁器などの制作もできる新しい工房と二つの専門美術館とを密接に連携、一体化させることで、これまでの役割をより発展・継承させていきます。

「（仮称）公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟」は、この場所ならではの体験や過ごし方が出来る芹ヶ谷公園、みんなでつくる“パークミュージアム”の実現にふさわしい拠点となることを目指します。



（仮称）公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の理念・指針について



▶施設のコンセプト

子どもから大人まで、「アート」の楽しさ、「創造」の喜び、「滞在」の心地よさを体験できる、パークミュージアムの玄関口

パークミュージアムの美術エリアにおける創作や体験を担う拠点として、工房機能を中心に、多様な世代の人々がアートに触れ合うことができる様々な機会を提供していきます。また、パークミュージアムの総合案内や美術エリアにおける創作・体験活動が集約した玄関口として、アートや芹ヶ谷公園の情報・魅力を提供していきます。

▶施設のミッション 施設の普遍的な目的について

子どもから大人まで、楽しみながら創作活動に取り組むことで、創造的な文化を育み、発展させていく。

パークミュージアムでは、町田ならではの魅力的な文化と出会える取り組みを展開していきます。

そのなかでも、（仮称）公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟は、特に版画・ガラス・陶芸などの創作活動を通じて、創造的な営みとしての文化を育て、次代に繋いでいくことを目指します。

ふらっと立ち寄ってみたいくなる居心地の良い空間と、多様な人々の活動や様々な体験を肌で感じることができる空間を提供し、ここに来るだけで、誰もががっつがるきっかけを得られる。

園内にある施設と連携し、飲食機能をはじめとした魅力的な滞在空間を創出していきます。

また、公園と美術館を楽しむためのサポート運営も充実させ、様々な人の公園における利用ニーズと、活動やアート体験を通じた多様なアート・カルチャーの機会を体現し、活動の輪を地域に還元していくことを目指します。

▶施設のビジョン 施設によって実現したい目標について

- 【創作】** 1. 誰もががものを作る楽しさを体験できる
- 【学び】** 2. 誰もが創造的な活動から学びを得られ、成長することができる
- 【居場所】** 3. 誰もが気軽に訪れる場所となり、美術や自然に囲まれた時間を過ごすことができる
- 【交流】** 4. 創造的な活動を通して、多様な人々が交流できる
- 【共生】** 5. 多様な価値観を認め合う共生社会の実現に寄与できる

工房・アート体験機能

主な機能：版画工房、陶芸体験スペース、ガラス体験スペース、アトリエ

1 ● 誰もがものを作る楽しさを体験できる場を提供します。

工芸や版画などの制作活動を初めて行う人でも、子どもから大人まで誰もが制作でき、ものを作る楽しさに触れることができる機会と場を提供します。

2 ● 利用者が快適に作品を制作でき、スキルを高められる場を提供します。

版画美術館のコンセプトの一つである“作る”機能を代表する、日本でも数少ない本格的な設備が備わった版画工房としての価値を継承・発展させ、利用者が快適に制作活動を行うことができる場を提供します。

3 ● 多様な人々の創作意欲を喚起します。

創作活動の場が広く開かれ、公園や施設の利用者から制作活動の様子が“見える”ことで、版画や工芸の制作への関心を高めたり、市民の創作意欲を喚起するきっかけ作りに取り組みます。

活動イメージ



親子で参加できるものづくりの体験の場になります。



現在の版画工房機能を引継ぎ、本格的な制作活動ができる場になります。



公園からのアクセスがよく、活動が外から見えることで、より多くの人々が制作活動に触れる機会を持つことができます。

喫茶機能

主な機能：喫茶（店内飲食、テイクアウト）、障がい者の働く場

1 ● 誰もが気軽に訪れることができる居場所を提供します。

公園でより快適に過ごすための、休憩や情報収集の場所、または活動の場所として誰もが気軽に訪れ、利用することができる“居場所”としての空間を提供します。

2 ● 多様な人々が交流できる場を提供します。

客席スペース・飲食提供などを通じて、多様な人々同士の繋がりやコミュニケーション、コミュニティなどの交流の場の提供やサポートを担います。

3 ● パークミュージアムの他の機能と連携し、賑わいを創出します。

工房・アート体験機能との連携だけでなく、美術館や公園でのさまざまな活動と連動した飲食機能の運用を行うことで、賑わい創出に寄与します。

活動イメージ



誰もが気軽に訪れることができ、活気溢れるコミュニティの場所になります。



多様な人たちが活躍・交流できる場として喫茶を運用します。



テイクアウト飲食提供やテラス席の設置を行うことでパークミュージアムを楽しむための拠点としての役割を果たします。

公園案内・運営機能

主な機能：パークミュージアム運営事務所

1 ● 公園で居心地良くを過ごすためのサポートを提供します。

パークミュージアムの入り口（窓口）として、受付や施設案内をはじめとした様々な対応や、利用者が居心地良く、公園で日常を過ごせるようなサポートを行います。

2 ● 多様な人々がつながり、一緒にパークミュージアムを盛り上げていくためのマネジメントを行います。

公園来園者・施設利用者や周辺地域の方々など、多様な人々が訪れ、活躍し、互いにつながっていく居場所となる運営を行います。

3 ● パークミュージアムの活動を発信し、地域とつながる取り組みを推進します。

パークミュージアムで生まれる様々な活動を、公園内だけでなく、まちなかにも発信していくことで、公園や施設に来る方だけでなく周辺にお住まいの方々や駅前地域との連携を推進します。

活動イメージ



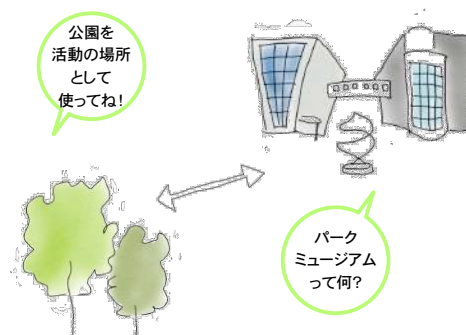
パークミュージアムで行われるさまざまな創作活動・アート体験等の「公園で〇〇したい」を実現する機会を創出します。



多様な人たちが活躍・交流できる場としてパークミュージアムをマネジメントします。



日常的に公園を使いたくなるサービスを提供し、パークミュージアムの情報発信や案内を行うことで多くの利用者が満足できる施設にします。



パークミュージアムの情報や案内だけでなく、人々の活動の様子も発信することで興味のタネをまき、地域とつながる取り組みを推進します。

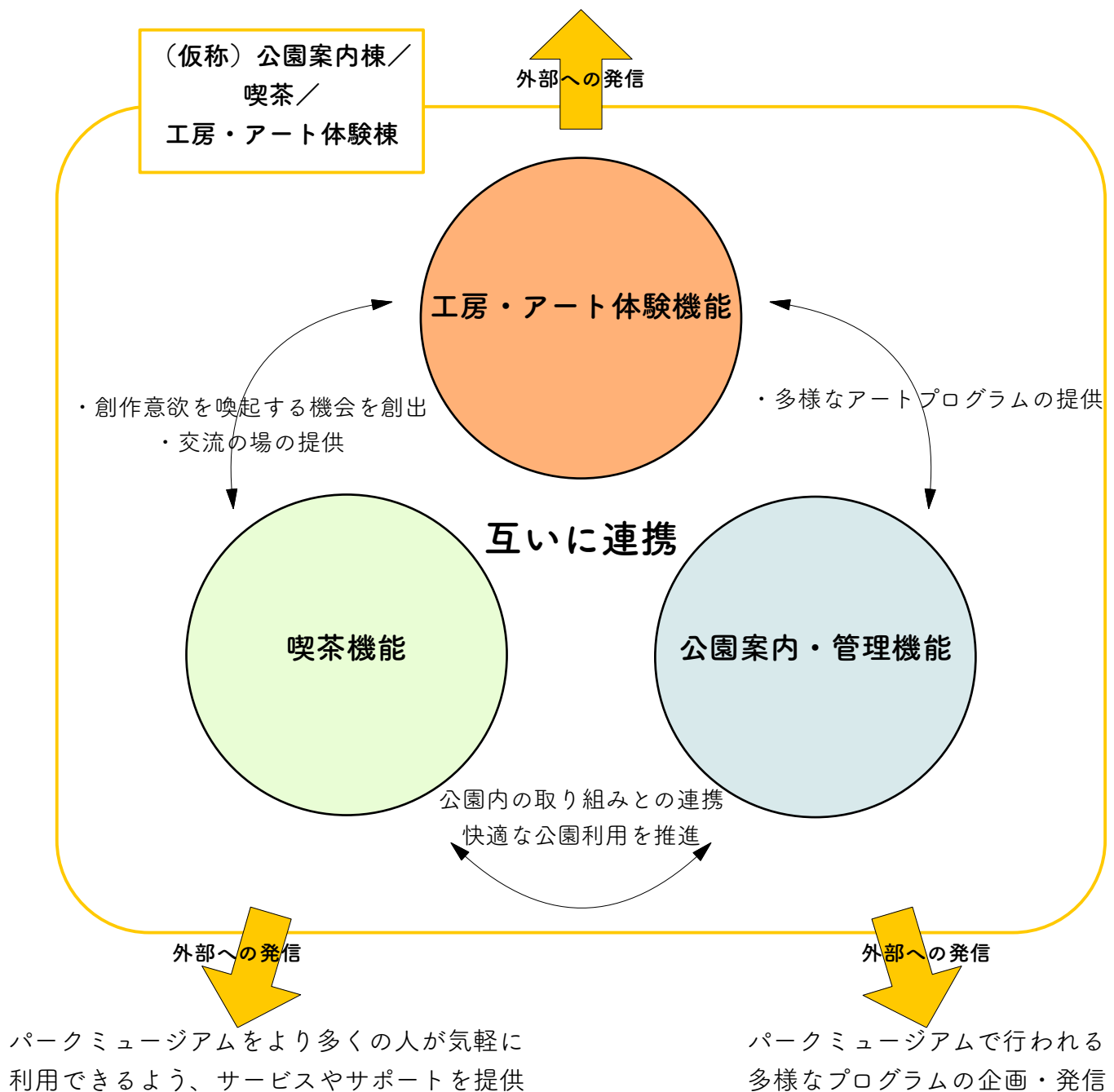
各機能の連携ダイアグラム

（仮称）公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟がもつ3つの機能は、お互いに連携し、相乗効果を引き出します。

例えば喫茶から工房が眺められることで創作活動に興味を持ってもらうきっかけを作りやすくしたり、パークミュージアム運営機能が施設内にあることで、公園での飲食企画の展開に対して柔軟に対応が可能になるなど、創造的な体験や学びを、今まで以上に芹ヶ谷公園に波及していきます。

その特徴を引き出すために、建物内のゾーニングは3つの機能が連携しやすいものとして計画を行います。

美術館と連携し、多くの創造的な体験の機会を提供



パークミュージアムと一体の自然環境を感じられる創作体験拠点

施設には多くの人々が行き交うように、公園と施設内が一体的な回遊性を作り出す計画を検討していきます。また、風や光が抜けていく、芹ヶ谷公園の豊かな自然環境を感じられるような建築となるよう検討を進めていきます。

1：公園の入り口となる開かれた場所

芹ヶ谷公園のエントランスの一つとして、来園者が気軽に訪れられるよう、内部の活動が外からも見える等の工夫を行い、周辺に対して開かれた配置とします。

2：美術館との一体的なエリアの形成

美術館や公園との連携を意識した配置とすることで、人々が施設間を行き交い賑わう、美術エリアを形成します。

3：緑豊かな公園環境に馴染んだ建ち現れ方

緑豊かな公園に馴染み、周辺環境から浮いたものにならないボリューム感として、建物全体が建ち現れるよう配慮を行います。